

文 学 部

独語学独文学科

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16101 他	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ(文法・作文・会話・講読・L.L.)	必	1	各1	前期 後期	林 田 雄 二 D. Herberg W. A. Steitz
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

ドイツ語学・独文学専攻の諸君は、ドイツ語をABCから始めて僅か4年ばかりの間に、ドイツ語でおこなわれる文学、言語学、ドイツ事情などの講義を理解し、また議論に参加し、最後には文献を相当自由に駆使して卒業論文を書き上げることができねばならない。このことは一見不可能に思えるかもしれない。しかし、学習者が興味と意欲をもってすれば、外国語習得の速度と効果はいくらでも高めることができ、目標を達成することは不可能ではない。

この1年間に、諸君は以後3年間の専門勉学の基礎工事をするのだが、それができるだけ効率よくなされるために、週6回のドイツ語の授業がある。しかし、この授業はあくまで諸君の自立的勉学を助けるものにすぎない。諸君自身の、授業時間の何倍もの自立的学習が無ければ、授業から十分な効果を引き出すことは不可能である。

週6回の授業は、ドイツ人と日本人の担当者によって、一貫した計画の下で行われる。

その目標とする点は、

- (1)教材に含まれる話し言葉と書き言葉を、まず具体的な能力として獲得することを通じて、日常レベルのドイツ語の構造と基礎的文法体系を把握すること。
- (2)ドイツ人によって話されるドイツ語を、正しく聞き取り、その意味を理解し、それに対してドイツ語で反応する能力を身につける。
- (3)正しい発音とイントネーションで、想定された日常的状況での会話能力を得ること。
- (4)話し言葉、書き言葉のいずれにおいても、音声と文字として正しく書く能力を得ること。(ディクテーション能力)
- (5)教材の中で提供される文や言い回しを、それに対応する日本語の文、言い回しに、できるだけ厳密に対応させる能力を得ること。
- (6)提供された文を、語の入れ換え、構造変換等によって、言い替え、拡大、応用する能力を養うこと。
- (7)様々のドイツ語テキストの基礎的読解力を養う。

以上の目的を達成するためには、授業の予習復習は言うに及ばず、それを越えた自立的な学習が必要不可欠である。

年間目標を考えた場合、授業への規則的かつ積極的な参加は、目的達成のための必要最低限の条件となる。

Wir wünschen Ihnen viel Erfolg!

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16121 16125	ドイツ学概説Ⅰ・Ⅱ	必	1	各1	前期 後期	E. Rucker 他
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 この講義は、1年次のドイツ語学習と平行して、ドイツに関する様々な分野についての基礎的な情報を伝達することを目的としている。

ドイツ語学習への刺激となるばかりでなく、第3年次以降に設けられている「ドイツ事情」、「ドイツ史」などの講義や、その他の特殊講義への入門となるものである。

【講義計画】 各テーマについて独語学独文学科のほぼ全教員が、交代で担当し、1つのテーマについて各3ないし4回があてられている。

1.-2.: 地理 (Rucker) 3.-5.: 歴史 (Szippel) 6.-9.: 思想史 (内藤)
10.-13.: 教育 (横田) 14.-16.: (石井) 17.-19.: 文学 (生野) 20.-22.: 文化 (Herberg)
24.-26.: 演劇 (林田) 27.: 民謡 (Rucker) 28.: 演劇 (林田)

【評価方法】 各担当者の、レポートや筆記試験などの評価を総合して行う。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16131 16135	中級ドイツ語文法Ⅰ・Ⅱ	必	2	各1	前期 後期	石 井 賢 治
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 テキストに基づき、一年次で習得した基礎的な文法知識を深化・拡大することを目指す。

【講義計画】 テキストにのっとって授業を進めていくが、説明や練習問題は必要に応じて補足する。

【評価方法】 定期試験だけでなく、随時行う小テストも評価の対象とするので欠席しないように。

【テキスト】 Ulrich Engel・早川東三・幸田 薫著『中級ドイツ語文法－内容から表現へー』第三書房 1986

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16141	ドイツ語学概論Ⅰ	必	2	1	前期	成 田 克 史
他の科目 との関連	ドイツ語学基礎演習			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 現代ドイツ語音声の研究

【講義内容】 言葉は原則として音声という形を与えられて初めて体現され、伝達可能となる。ことばというものを理解する上で、音声は避けて通ることのできないテーマである。この授業では下記の講義計画に挙げた項目を主として扱いながら、一年間にわたりドイツ語の音声がどのような存在であるかについて観察し、考察を加え、認識を深めていきたい。

授業では、各項目について関連する文献（抜粋）を読み、これに注釈を加えながら具体的なドイツ語の事例を検討していく予定である。

【講義計画】 前期の授業で扱う主な項目は次の通りである。

1. 音声学の歴史, 2. 音声学の方法, 3. 気流機構と発生, 4. 母音の特徴, 5. 子音の特徴

【評価方法】 授業における文献の内容報告と筆記試験による。

【テキスト】 主要な文献からの抜粋をプリントして配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16145	ドイツ語学概論Ⅱ	必	2	1	後期	成 田 克 史
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 現代ドイツ語音声の研究

【講義内容】 言葉は原則として音声という形を与えられて初めて体現され、伝達可能となる。ことばというものを理解する上で、音声は避けて通ることのできないテーマである。この授業では下記の講義計画に挙げた項目を主として扱いながら、一年間にわたりドイツ語の音声がどのような存在であるかについて観察し、考察を加え、認識を深めていきたい。

授業では、各項目について関連する文献（抜粋）を読み、これに注釈を加えながら具体的なドイツ語の事例を検討していく予定である。

【講義計画】 後期の授業で扱う主な項目は次の通りである。

6. 音連続と音変化, 7. 音の配列, 8. 音節とリズム, 9. アクセント, イントネーションなど, 10. 音の歴史的変遷

【評価方法】 授業における文献の内容報告と筆記試験による。

【テキスト】 主要な文献からの抜粋をプリントして配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16151	中級ドイツ語講読Ⅰ	必	2	1	前期	横 田 忍
他の科目との関連	ドイツ文学基礎演習			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 有名な文学作品の講読。

【講義計画】 1) Grimm : Hänsel und Gretel.
2) Borchert : Nachts schlafen die Ratten doch.
3) Brecht : Mutter Courage und ihre Kinder.
4) Goethe : Heidenröslein.
5) その他

【評価方法】 筆記試験と授業参加等の総合評価。

【テキスト】 プリント配布

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16155	中級ドイツ語講読Ⅱ	必	2	1	後期	林 田 雄 二
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 文学テキスト以外の色々な分野のテキスト（新聞、雑誌、評論、事務文章、役所の文章など）を読んでいきたい。

【講義計画】 1. 新聞（“Die Zeit”，“Frankfurter Allgemeine”，“Bild” u.s.w.）
2. 雑誌（“Der Spiegel”，“Focus”，“Der Stern” u.s.w.）
3. 自然科学、心理学、社会学などのテキスト。
4. 事務、役所などの文章。
5. その他。

【評価方法】 ・筆記試験
・講義への積極的参加

【テキスト】 ・プリントを渡す

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16161	ドイツ文学概論Ⅰ	必	2	1	前期	生 野 芳 徳
他の科目との関連	ドイツ文学基礎演習			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 ドイツ文学研究のためのきわめて基礎的な知識を伝達することを目的とする。「ドイツ文学基礎演習」では、具体的な実習に重点が置かれるのに対して、ここでは理論的な概観を行うことによって方法論的意識を高めることが主眼となる。

【講義計画】 前期は物語構文の解釈のための基礎知識を中心とする。
I. 1. Literatur, Textとは何か 2. Textの種類 3. 文学のジャンル

- II. 1. Wirklichkeitsbericht und epischer Bericht 2. Erzähler 3. Erzählsituationen
4. Point of view 5. Zeitgerüst der Erzählung 6. Personenrede usw.

【評価方法】 筆記試験およびレポート

【テキスト】 教材
J. Vogt: Aspekte erzählender Prosa,
Dieter Gutzen u.a.: Einführung in die neuere deutsche Literatur-wissenschaft.
などの文献からの抜粋と日本語の解説をプリントで配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16165	ドイツ文学概論II	必	2	1	後期	生 野 芳 徳
他の科目との関連	ドイツ文学基礎演習			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 ドイツ文学研究のためのきわめて基礎的な知識を伝達することを目的とする。「ドイツ文学基礎演習」では、具体的な実習に重点が置かれるのに対して、ここでは理論的な概観を行うことによって方法論的意識を高めることが主眼となる。

【講義計画】 後期は叙情詩と演劇を中心とする。
III. 叙情詩：韻律論の基礎
IV. 演劇：演劇の構造論の基礎

【評価方法】 筆記試験およびレポート

【テキスト】 教材
山口四郎：ドイツ詩を読む人のために。（郁文堂）
その他のドイツ語の文献からの抜粋には日本語の解説を付してプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16171	ドイツ語（視聴覚）I（A）	必	2	1	前期	D. Herberg
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 ALLTAGSSITUATIONEN

【講義内容】 AUSBILDUNG ALLER KOMMUNIKATIVEN GRUNDFÄHIGKEITEN MIT SCHWERGEWICHT AUF SPRECHEN UND HÖRVERSTEHEN.

【講義計画】 KOMMUNIKATIONSFÄHIGKEIT IM ALLTAG.

【評価方法】 REGELMÄSSIGE TEILNAHME UND SELBSTÄNDIGES VORBEREITEN FÜR JEDE STUNDE SIND UNERLÄSSLICH, ZUR BEURTEILUNG WERDEN HAUSAUFGABEN, MÜNDLICHE ZWISCHEN- UND ABSCHLUSSTESTS SOWIE MITARBEIT IM UNTERRICHT HERANGEZOGEN.

【テキスト】 JE NACH ABSPRACHE MIT DEN TEILNEHMERN.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16172	ドイツ語（視聴覚）Ⅰ（Ｂ）	必	2	1	前期	C. Schlüter
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 Deutsch im Original(Ton und Bild)

【講義内容】 Festigung und Erweiterung der Hör- und Sprechfähigkeit und somit des passiven/aktiven Wortschatzes. Inhalt nach Absprache mit den Teilnehmern.

【講義計画】 Eingesetzt werden sollen ausgewählte Hörtexte zu Themen aus dem Alltag und Videomitschnitte von Sendungen des deutschen Fernsehens.

【評価方法】 Aktive Teilnahme am Unterricht und Test.

【テキスト】 Originalmaterial in Absprache mit den Teilnehmern.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16175	ドイツ語（視聴覚）Ⅱ（Ａ）	必	2	1	後期	D. Herberg
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 ALLTAGSSITUATIONEN

【講義内容】 AUSBILDUNG ALLER KOMMUNIKATIVEN GRUNDFÄHIGKEITEN MIT SCHWERGEWICHT AUF SPRECHEN UND HÖRVERSTEHEN. FORTSETZUNG VON SS 1995

【講義計画】 KOMMUNIKATIONSFÄHIGKEIT IM ALLTAG.

【評価方法】 REGELMÄSSIGE TEILNAHME UND SELBSTÄNDIGES VORBEREITEN FÜR JEDE STUNDE SIND UNERLÄSSLICH, ZUR BEURTEILUNG WERDEN HAUSAUFGABEN, MÜNDLICHE ZWISCHEN- UND ABSCHLUSSTESTS SOWIE MITARBEIT IM UNTERRICHT HERANGEZOGEN.

【テキスト】 JE NACH ABSPRACHE MIT DEN TEILNEHMERN.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16176	ドイツ語（視聴覚）Ⅱ（Ｂ）	選	2	1	後期	C. Schlüter
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 Deutsch im Original(Ton und Bild)

【講義内容】 Festigung und Erweiterung der Hör- und Sprechfähigkeit und somit des passiven/aktiven Wortschatzes. Inhalt nach Absprache mit den Teilnehmern.

【講義計画】 Eingesetzt werden sollen ausgewählte Hörtexte zu Themen aus dem Alltag und Videomitschnitte von Sendungen des deutschen Fernsehens.

【評価方法】 Aktive Teilnahme am Unterricht und Test.

【テキスト】 Originalmaterial in Absprache mit den Teilnehmern.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16181 16182	ドイツ文学基礎演習 A・B	必	2	各2	前期 後期	横 田 忍
他の科目 との関連	中級ドイツ語講読 I, ドイツ文学概論 I・II			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 ドイツ文学研究入門

【講義内容】 文学の基礎知識獲得及び 3, 4 年次文学演習のための研究法入門。常識程度の文学理論と作品解釈。

【講義計画】 1)文学研究法：グリムのメルヘンを使って様々な研究法を紹介する。
2)文学のジャンルと作品の分析・解釈：小説・ドラマ・詩の各ジャンルから有名な作品を選んで分析、解釈する。

【評価方法】 筆答試験および授業参加貢献度による。

【テキスト】 プリント配布

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16185 16186	ドイツ語学基礎演習 A・B	必	2	各2	前期 後期	石 井 賢 治
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 ドイツ語研究の手引きを目指す。
語学的な研究を行う上での図書館の文献の活用法、とくにどんな時にどんな文献を参照するかなどをまず学ぶ。それに基づきいろいろな領域から簡単な課題を設けて実際に皆で取り組む。

【講義計画】 中間発表、レポートは不可欠である。

【評価方法】 定期試験は行いが、中間発表、レポートなども重視する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16191 16195	中級ドイツ語作文 I・II	必	2	各1	前期 後期	E. Rucker 原 田 武 雄
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 Vorstellung und Einführung einfacherer Aufsatztypen (Bildbeschreibung, Erzählung, Bericht, einfache Erörterung, Briefarten)

【講義計画】 1. Entwurf deutscher Texte unter Anleitung des japanischen Dozenten
2. Kommentierung dieser Texte durch den deutschen Dozenten

【評価方法】 Selbständig verfertigte Aufsätze

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16201	ドイツ文学史A	必	2・3	2	前期	生 野 芳 徳
他の科目との関連	ドイツ史・ドイツ思想・ドイツ文学特殊講義・ドイツ語学特殊講義	他学科履修		可	重複履修	不可

【講義内容】 この講義はドイツ(ドイツ語)文学の歴史的流れについての、概観を与えることを目的とする。時代の世界観と文学のジャンルや様式との関係を重視し、かつ可能なかぎり各時代のテキストに触れることを通じて、それぞれの時代における文学の存在理由と実際に果たした役割について考えるきっかけを提供することを目指す。文学史の常識は、各自で下に掲げる既存の文学史を読んで、あらかじめ身につけておいてもらいたい。

【講義計画】 取り上げる作品の数はきわめて限られたものにならざるを得ない。その具体的な予定は第一回目の講義で、リストを配布する。
前期の時代範囲は、古代ゲルマンの文学から浪漫派まで。
特殊講義などで今学期重点的に扱われる部分は、重複を避ける予定である。

【評価方法】 ロ頭発表およびレポート

【テキスト】 教材：プリントで配布
自分で読んでおく、あるいは授業と平行して読むべきもの：
東大出版会「ドイツ文学史」、Fr. Martini: Die Geschichte der deutschen Literatur von den Anfängen bis zur Gegenwart. (邦訳:三修社「ドイツ文学史。原初から現代まで。」)岩波文庫「ドイツ文学案内」のいずれか一つ。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16205	ドイツ文学史B	必	2・3	2	後期	生 野 芳 徳
他の科目との関連	ドイツ史・ドイツ思想・ドイツ文学特殊講義・ドイツ語学特殊講義	他学科履修		可	重複履修	不可

【講義内容】 後期の時代範囲は、19世紀初頭から第二次世界大戦後まで(戦後から今日までの現代文学については、特殊講義などに譲る。)

この講義はドイツ(ドイツ語)文学の歴史的流れについての、概観を与えることを目的とする。時代の世界観と文学のジャンルや様式との関係を重視し、かつ可能なかぎり各時代のテキストに触れることを通じて、それぞれの時代における文学の存在理由と実際に果たした役割について考えるきっかけを提供することを目指す。文学史の常識は、各自で下に掲げる既存の文学史を読んで、あらかじめ身につけておいてもらいたい。

【講義計画】 取り上げる作品の数はきわめて限られたものにならざるを得ない。その具体的な予定は第一回目の講義で、リストを配布する。
特殊講義などで、今学期重点的に扱われる部分については重複を避ける予定である。

【評価方法】 ロ頭発表およびレポート

【テキスト】 教材：プリントで配布
自分で読んでおく、あるいは授業と平行して読むべきもの：
東大出版会「ドイツ文学史」、Fr. Martini: Die Geschichte der deutschen Literatur von den Anfängen bis zur Gegenwart. (邦訳:三修社「ドイツ文学史。原初から現代まで。」)岩波文庫「ドイツ文学案内」のいずれか一つ。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16211 16215	上級ドイツ語作文・翻訳Ⅰ・Ⅱ	必	3	各2	前 期 後 期	E. Rucker
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 Übersetzung dichterischer Prosawerke (japanisch-deutsch)
Verfertigung komplizierter Erörterungen, verbunden mit der Vorbereitung und Darbietungen von frei gehaltenen Reden

【講義計画】 Sommersemester:
Übersetzung einer Erzählung AKUTAGAWAs
Wintersemester:
Einübung dialektischer Erörterungen, Halten und Beurteilen von Reden

【評価方法】 Übersetzungsproben, Redeentwürfe, Rededarbietungen

【テキスト】 Akutagawa, Spinnfaden 芥川龍之介「蜘蛛の糸」

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16221 16225	上級ドイツ語講読Ⅰ・Ⅱ	必	3	各2	前 期 後 期	原 田 武 雄
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【テキスト】 I : Michael Ende:Warum schreibt man für Kinder? 同学社(講演)
II : Ernst Glaeser:Die letzte Weinlese. 郁文堂(20世紀前半の短編三つ)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16251 16261 16271 16281	独文演習Ⅰ 1・Ⅱ 1・Ⅲ 1・Ⅳ 1	必	3・4	各2	前 期 後 期	石 井 賢 治
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 「造語編」を含む幾つかの領域からテーマを取り上げ、それを三年生を中心にした小人数のグループで取り扱う。こういった実地訓練を通して当該ならびに関連領域の知識を深めると同時に、研究の進め方に習熟することを目指す。

【講義計画】 テーマに希望があればそれに研究調査方法を添えて提出してもらおう。口頭発表、最終的なレポートを予定している。発表の際には、発表者と聞き手の問での活発な意見の交換を期待する。

【評価方法】 総合的評価

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16252 16262 16272 16282	独文演習Ⅰ 2・Ⅱ 2・Ⅲ 2・Ⅳ 2	必	3・4	各2	前期 後期	内 藤 克 彦
他の科目 との関連	ドイツ文学講義を補完するものとして			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 文学作品の構造分析法の研究

【講義内容】 文学作品の構成素材が言語である以上、その構造分析は、まず言語の分析をもって始められ、次いで文体分析へと進み、更に作品内容の構成要素としての筋立てと背景、人物の性格と思想、モチーフ、テーマの析出をもって一応完了するが、それらの作業を一貫して方向づけるのは、作者の創作理念に即し、作品に内在する内面形式に即して作品を見ようとする研究態度である。作品解釈はそのような構造分析の結果に立脚してはじめて可能となる。本演習は、そのような文学作品の構造分析の手法の体得を目指すものである。

【講義計画】 前期においては、学生各自が選びとった作品について、時間ごとに、(1)名詞の特徴的用法、(2)動詞の特徴的用法、(3)形容詞の特徴的用法、(4)文体的特徴、(5)筋立て、(6)背景、(7)人物の性格、(8)人物の思想、(9)モチーフ、(10)テーマ、(11)作品に内在する内面形式について、各自の検討結果の中間報告を持ち寄り、それに関する討論を行う。
後期においては、学生が順次、各自の夏期休暇中ならびに後期期間中にまとめた論文素案に基づく研究発表を行い、それに関する討論を行う。

【評価方法】 前期は定期試験(筆答)により、後期はレポートによって行う。出席と討論参加をも重視する。

【テキスト】 必要に応じて適宜プリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16253 16263	独文演習Ⅰ 3・Ⅱ 3	必	3	各2	前期 後期	E. Rucker
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 Genese und Formen der deutschen Kurzgeschichte
Gegen Ende : Verfertigung von Kurzgeschichten

【講義計画】 1. nicht deutsche und deutsche Vorformen der Kurzgeschichte
2. Exemplarische Kurzgeschichten
3. Verfassen von Kurzgeschichten

Seminar III, IV:

Teilnahme an den Studien des Seminar I/II.

Anleitung zur Verfertigung der Abschlussarbeit

【評価方法】 Schriftliche Rechenschaftsablage bzgl. des Verständnisses der Theorie der Kurzgeschichte.
Schreiben einer Kurzgeschichte

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16254 16264 16274 16284	独文演習Ⅰ 4・Ⅱ 4・Ⅲ 4・Ⅳ 4	必	3・4	各2	前期 後期	R. Szippel
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 日独交流史

【講義内容】 本演習は、日本とドイツとの交流の歴史を研究対象とする。日独関係の歴史は長くて、特に明治時代に交流が盛んであった。この日独関係の中には、経済的、政治的な交流ばかりではなく、文化的、人物的な交流もあるが、受講生がテーマを選択し、資料を集めて研究し、口頭発表、質疑応答、レポート作成などを通して、ドイツと日本の関係についての理解を深めていく。

【講義計画】 本演習においては、下記の項目のもと、日独交流史を研究していきたいとおもう。

1. 研究テーマの選択
2. 日独交流史の外観
3. 研究方法の説明
4. 口頭発表（質疑応答を含む）
5. レポート提出

受講生が自分の研究分野だけではなく、皆のテーマに関心を持ち、幅の広い知識と理解を深めるために、発表の質疑応答への積極的な参加を期待する。

【評価方法】 発表資料、発表内容、質疑応答、レポートから総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16255 16265 16275 16285	独文演習Ⅰ 5・Ⅱ 5・Ⅲ 5・Ⅳ 5	必	3・4	各2	前期 後期	生 野 芳 徳
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Thomas Mann: Der Zauberbergの研究

【講義内容】 原文で千頁に近い長編小説であるから、その全部を限られた時間で読みとおすことはできない。参加者が、とりあえず邦訳で熟読しておくことが前提となる。

時間内では、各章からの原文抜粋を読みながら、作品解釈の手掛かりを探る。

この作品についての、多くの研究論文の検討と同時に、K. Hamburger, Fr. Stanzelなどの物語散文に関する理論を検討する。

なお、コンピュータによる文学作品のテキストの分析の可能性を探る意味で、九州大学の樋口忠治教授のテキスト・データベース Thomas-Mann-file の利用の方法も紹介する予定である。

【講義計画】 前期は、第5章まで、後期は最終章（第7章）まで。

演習は3・4年合同で週1コマで行われるので、卒業論文の指導・討論のためには別に卒業演習（サブゼミ）の時間を設ける。したがって参加者は、その両方に参加すること。

【評価方法】 各演習時間内の参加度、口頭発表、レポート、3年次生には、筆記試験も課す。

【テキスト】 プリントで配布（抜粋）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16256 16266 16276 16286	独文演習Ⅰ 6・Ⅱ 6・Ⅲ 6・Ⅳ 6	必	3・4	各2	前期 後期	横 田 忍
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 ブレンターノ研究および卒論指導

【講義内容】 ロマン派の天才肌の詩人ブレンターノの諸作品を読む。アルニムとの共著『少年の魔法の角笛』の他に散文作品も2、3扱いたい。後期は4年生の卒論発表も行う。

【講義計画】 1. 『少年の魔法の角笛』から民謡作品

2. 『ゴッケル物語』
3. 『カスベルとアンネル』

【評価方法】 筆答試験、レポート等の総合評価

【テキスト】 プリント配布

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16621	ドイツ文化史	選	2～4	2	前期	林 田 雄 二
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 本講義の重点は戦後のドイツ文化史に置かれる。とりわけ、ドイツ統一以後の文化的状況にスポットをあて、ビデオ教材をふんだんに使い、現在のドイツを見てゆきたい。

【講義計画】 1. 壁の崩壊までの西ドイツ文化の概略（文学、演劇、映画、音楽、など）
2. ドイツ統一
3. 統一以降のドイツ文化

【評価方法】 1. レポート
2. 講義への積極的参加

【テキスト】 三島憲一著「戦後ドイツ」－その知的歴史－ 岩波新書 （158）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16623 16624	ドイツ語史	選	3・4	各2	前期 後期	原 田 武 雄
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 統一文章語へと向かうドイツ語の歩みを、Hans Eggers にならって、社会生活の進展との関連のもとで、理解できるように努める。

【講義計画】 文書の流布が画期的に顕著になる16世紀を目安として、それ以前を前期、それ以後を後期で扱いたい。C.J.Wells: German: A Linguistic History to 1945（ドイツ語訳で）、R.E.Keller: Die Deutschen Sprache, P.v.Polenz: Geschichte der deutschen Sprache などから、コピーで抜き読みしながら進めたい。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16631	ドイツ史	選	3・4	2	前期	R. Szimpl
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 ドイツ近代史（18世紀からドイツ帝国時代まで）

【講義内容】 ドイツの近代史は、大変激しい政治・社会・経済の変化に特徴付けられている。また、19世紀の国家統一や勢力拡張、帝国主義もヨーロッパの歴史だけでなく、世界の歴史にも大きな影響を及ぼしたものである。

講義は18世紀からドイツ帝国時代までのドイツの歩みをたどる。それぞれの時代の主な動きに焦点をあわせ、近代ドイツの成立を考察していく。主なテーマとしては、ナショナリズムと統一の問題、自由主義と民主主義の発展、第2帝政の成立とその政治的、経済的、社会的構造、国際関係などを取上げて、近代ドイツ社会の歴史の流れについての理解を深めていく。

【講義計画】 本講義においては、18世紀から帝国時代までのドイツの歴史の流れを辿っていくが、まず18世紀のドイツの情勢から始める。最初に神聖ローマ帝国の構造とドイツの民族の問題、プロイセンの興隆、フランス革命の影響などについて考える。次に、19世紀前半（Vormärz）の経済、政治、社会体制についての考察を踏まえて、ドイツ統一問題とドイツ帝国の成立を考える。それから、ドイツ帝国時代の経済・政治・社会体制と外交政策を考えながら、ドイツ社会の近代化の問題を解明する。

【評価方法】 試験やレポートを中心に評価するが、受講生の授業への積極的参加をも重視する。

【テキスト】 木谷勤、望田・幸男編著『ドイツ近代史』ミネルヴァ書房 1992年

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16632	ドイツ史	選	3・4	2	後期	R. Szimpl
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 ドイツ近代史（ワイマル時代から現代まで）

【講義内容】 ドイツの近代史は、大変激しい政治・社会・経済の変化に特徴付けられている。特に20世のナチス党独裁、外交政策、第2次世界大戦、敗戦後の分割を通して、ヨーロッパの歴史だけではなく、世界の歴史にも大きな影響を及ぼしたものである。
講義はワイマル時代から東西統一まで現代ドイツの歩みをたどる。それぞれの時代の主な動きに焦点をあわせ、近代ドイツの成立を考察していく。主なテーマとしては、ワイマル時代、ナチス時代、第2次世界大戦後時代のドイツ社会、冷戦などを取上げて、近代ドイツ社会の歴史の流れについての理解を深めていく。

【講義計画】 本講義においては、ワイマル時代から現代までのドイツの歴史の流れを辿っていくが、まず第一次世界大戦後のドイツ、すなわち、ドイツ革命、ワイマル共和国の成立から始まる。最初に、ワイマル期の民主主義や経済体制、国際関係の諸問題について考える。次に、ナチス党の政権掌握、ナチス時代の一党独裁下のドイツの社会、経済を考察する。それから、ナチスの外交政策や第2次世界大戦を踏まえて、最後に、敗戦後のドイツの分割、東西ドイツの歩み、近年の統一の歩みを辿る。

【評価方法】 試験やレポートを中心に評価するが、受講生の授業への積極的参加をも重視する。

【テキスト】 木谷勤、望田・幸男編著『ドイツ近代史』ミネルヴァ書房 1992年

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16635	ドイツ思想	選	3・4	2	前期	内藤克彦
他の科目との関連	ドイツ文学講義・演習の補助科目として			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 ドイツ古典主義文学理論の思想的背景

【講義内容】 ドイツにおける古典主義文学志向の端緒を開いたヴィンケルマンやレッシングの芸術論ならびに文学論、それを更に発展させ深めたヘルダー、ゲーテ、シラーの古典主義的文芸理論をよりよく理解するためには、そのような理論形成の背景にあつて、彼等があるいは影響を受けあるいは対決しなかったライプニッツの弁証論的世界観や、ヴォルフ、メンデルスゾーン、ズルツァー、ガルヴェらのドイツ啓蒙思想、そしてまたカントの批判哲学思想などがどのようなものであったかを、彼らとのかかわりにおいて見ておく必要がある。本講は、そのようなドイツ古典主義的文芸理論の思想的背景を、できるだけ具体的にテキストの対応関係において検討することを目標とするものである。

【講義計画】 次のような順序で、詩人たちに特にかかわりの深い思想について、テキストの重要な箇所を具体的にしながら検討を進める。
1. ライプニッツ『单子論』、 2. ヴォルフ『人性論』、 3. メンデルスゾーン『感情論』、 4. ズルツァー『一般芸術理論』、 5. ガルヴェ訳ファーガソン著『道徳哲学』、 6. シャフツベリ『人性論』、 7. カント『判断力批判』（1）「美的判断力論」、 8. カント『判断

力批判』(2)「目的論的判断力論」、9. カント『実践理性批判』、10. フィヒテ『人間の使命』、11. W.v.フンボルト「言語哲学」、12. 敬虔主義運動

【評価方法】 定期試験(筆答)による。

【テキスト】 適宜プリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16636	ドイツ思想	選	3・4	2	後期	加 藤 泰 史
他の科目との関連	哲学史特講B I			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 ドイツ観念論研究(2) ー初期フィヒテの実践哲学とシェリングの超越論哲学、あるいはシェリングのフィヒテ批判ー

【講義内容】 フィヒテの『自然法の基礎』(1795年)における「相互人格性(Interpersonalität)」の概念は、カント実践哲学に対する批判の中で形成されてきた概念であり、ここにフィヒテ独自の実践哲学の構築を確認することができる。他方、シェリングは『超越論的観念論の体系』(1800年)においてフィヒテ哲学から距離を置き、シェリング独自の反ニュートンの自然観を展開するに至る。本講義では、哲学史特講B Iの「ドイツ観念論研究(1)」の議論を前提にしながら、ドイツ観念論の運動をフィヒテとシェリングとの差異に即してさらに跡付けてみる。

【講義計画】 (0)「ドイツ観念論研究(1)」の総括
(1)フィヒテ『自然法の基礎』におけるカント批判と「相互人格性」の問題
(2)「相互人格性」の概念と現代哲学(他者論及びコミュニケーション理論)
(3)シェリング『超越論的観念論の体系』におけるフィヒテ批判と反ニュートンの自然観
(4)フィヒテ哲学とシェリング哲学との差異

【評価方法】 講義中の聴講態度・質疑応答・筆記試験の成績等から総合的に評価する。

【テキスト】 テキストは特に指定しないが、参考文献については講義中に指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16641 16642	ドイツ文学特殊講義	選	3・4	各2	前期 後期	内 藤 克 彦
他の科目との関連	ドイツ文学概論、ドイツ文学史の特論として			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 ドイツ古典主義の文学世界

【講義内容】 ゲーテとシラーの主要な作品(抒情詩、思想詩、物語詩、小説、戯曲)の世界に、テキストの抜粋コピー、ビデオやテープなどをできる限り活用して、具体的に触れることに努め、近代ヒューマニズムの香り高いドイツ古典主義文学の現代における意義についてもあわせて考えることにしたい。テキストの抜粋コピーには必ず翻訳を添えて他学科の学生にも理解可能になるように配慮する。

【講義計画】 次の順序で作品を紹介解説する。

前期:ゲーテの作品

1. 初期の抒情詩、 2. 『若きヴェルターの悩み』、 3. 『鉄手のゲッツ・フォン・ベルリッヒンゲン』、 4. 中期の抒情詩(1)、 5. 中期の抒情詩(2)、 6. 『イフィゲーニエ』、 7. 晩年の抒情詩(1)、 8. 晩年の抒情詩(2)、 9. 『西東詩集』、 10. 『ファウスト』(1)、 11. 『ファウスト』(2)、 12. 『ファウスト』(3)

後期:シラーの作品

1. 『群盗』、 2. 『たくらみと恋』、 3. 『歓喜に』、 4. 『ドン・カルロス』、 5. 『ギリシアの神々』・『芸術家』、 6. 『ヴァレンシュタイン』、 7. 『マリア・ステュアルト』、 8. 『オルレアン処女』、 9. 『メシーナの花嫁』、 10. 『ヴィルヘルム・テル』、 11. 物語詩、 12. 思想詩

【評価方法】 定期試験（筆答）による。

【テキスト】 適宜プリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16643 16644	ドイツ文学特殊講義	選	3・4	各2	前期 後期	金子 章
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 <パウル・ツェラーンの詩>と現代ドイツ抒情詩

【講義内容】 以下のテーマを中心に講義する。

- 1)パウル・ツェラーンの詩の解釈。
- 2)近代ドイツ抒情詩におけるパウル・ツェラーンの詩の位置について。
- 3)ドイツ人とユダヤ人の関係、とくにユダヤ人の同化の問題について。

【講義計画】 1)講義に学生諸君の参加を期待する。ツェラーンの詩では<コトバ遊び>が大きな役割をはたしているが、これに限らずテキストのなかで重要と思われる詩句と一緒に辞書で確かめながら詩を読みたい。（従って辞書を常時携帯する。）
2)講義に平行して、ドイツ人とユダヤ人の関係を話題にしたビデオを見る。

【評価方法】 レポート、授業時の質疑応答、ビデオについての感想文などから総合的に評価する。

【テキスト】 金子 章著『パウル・ツェラーン詩集<雪の部位>注釈』（三省堂）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16651	ドイツ文化特殊講義	選	3・4	2	前期	D. Herberg
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【講義内容】 SOZIALGESCHICHTE DES DEUTESCHSPRACHIGEN THEATERS VOM MITTELALTER
BIS ZUR GEGENWART
TEIL 1

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16652	ドイツ文化特殊講義	選	3・4	2	後期	D. Herberg
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【講義内容】 SOZIALGESCHICHTE DES DEUTESCHSPRACHIGEN THEATERS VOM MITTELALTER
BIS ZUR GEGENWART
TEIL 2

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16653	ドイツ文化特殊講義	選	3・4	2	前期	W. A. Steitz
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16654	ドイツ文化特殊講義	選	3・4	2	後期	W. A. Steitz
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16661 16662	ドイツ語学特殊講義	選	3・4	各2	前期 後期	E. Rucker
他の科目との関連	ドイツ文学史			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 Einführung in das Mittelhochdeutsche

【講義内容】 Nach einer kurzen Einführung der wesentlichen Unterschiede zwischen dem Neuhochdeutschen und dem Mittelhochdeutschen lesen wir repräsentative mittelhochdeutschen Texte (Epik, Lyrik, Mystik)

【講義計画】 1. Grundlagen der mittelhochdeutschen Grammatik und Semantik
2. Lektüre mhd. Texte

【評価方法】 Übersetzungsproben (mündlich und schriftlich)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16671	上級ドイツ語会話 I (A)	選	3・4	2	前期	D. Herberg
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 AKTUELLE THEMEN AUS ALLEN LEBENSBEREICHEN

【講義内容】 AUSBILDUNG ALLER KOMMUNIKATIVEN GRUNDFÄHIGKEITEN MIT SCHWERGEWICHT AUF SPRECHEN UND HÖRVERSTEHEN.

【講義計画】 GEÜBT WERDEN PERSÖNLICHE STELLUNGNAHME ZU AKTUELLEN THEMEN BZW. AKTIVE TEILNAHME AN EINER GRUPPENDISKUSSION.

【評価方法】 BESONDERER WERT WIRD AUF DIE PRODUKTIVE MITGESTALTUNG DES UNTERRICHTS UND SELBSTÄNDIGES VORBEREITEN AUF JEDES DER ZU BESPRECHENDEN THEMEN GELEGT.
ALS GRUNDLAGE FÜR DIE BEURTEILUNG DIENEN HAUSAUFGABEN ZWISCHEN- UND ABSCHLUSSTESTS SOWIE BETEILIGUNG AM UNTERRICHT.

【テキスト】 JE NACH ABSPRACHE MIT TEILNEHMERN.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16675	上級ドイツ語会話Ⅱ（A）	選	3・4	2	後期	D. Herberg
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 AKTUELLE THEMEN AUS ALLEN LEBENSBEREICHEN

【講義内容】 AUSBILDUNG ALLER KOMMUNIKATIVEN GRUNDFÄHIGKEITEN MIT SCHWERGEWICHT AUF SPRECHEN UND HÖRVERSTEHEN.
FORTSETZUNG VON SS 1995

【講義計画】 GEÜBT WERDEN PERSÖNLICHE STELLUNGNAHME ZU AKTUELLEN THEMEN BZW. AKTIVE TEILNAHME AN EINER GRUPPENDISKUSSION.

【評価方法】 BESONDERER WERT WIRD AUF DIE PRODUKTIVE MITGESTALTUNG DES UNTERRICHTS UND SELBSTÄNDIGES VORBEREITEN AUF JEDES DER ZU BESPRECHENDEN THEMEN GELEGT.
ALS GRUNDLAGE FÜR DIE BEURTEILUNG DIENEN HAUSAUFGABEN ZWISCHEN- UND ABSCHLUSSTESTS SOWIE BETEILIGUNG AM UNTERRICHT.

【テキスト】 JE NACH ABSPRACHE MIT TEILNEHMERN.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16681	上級ドイツ語会話Ⅰ（B）	選	3・4	2	前期	C. Schlüter
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 Themen aus dem Alltag

【講義内容】 Festigung und Erweiterung der Hörfähigkeit und des aktiven Wortschatzes.

【講義計画】 Die Grundlage bildet das unten genannte Lehrwerk voraussichtlich ab Lektion 7, ergänzt durch Originalmaterial.
Trainiert werden sollen vor allem das Hörverständnis und die Fähigkeit, frei zu Themen aus dem Alltag Stellung zu nehmen.

【評価方法】 Wichtig ist vor allem die aktive Teilnahme am Unterricht. Dazu ist eine sorgfältige Vor- und Nachbereitung der Unterrichtsstunden notwendig.
Diese bilden zusammen mit dem abschliessenden Test (Hörverständnis und Übungen im Stil des Arbeitsbuches) die Grundlage für die Beurteilung.

【テキスト】 THEMEN NEU 1 :Kursbuch, Arbeitsbuch und Cassetten (keine Kopien!)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16685	上級ドイツ語会話Ⅱ（B）	選	3・4	2	後期	C. Schlüter
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 Themen aus dem Alltag

【講義内容】 Festigung und Erweiterung der Hörfähigkeit und des passiven/aktiven Wortschatzes. Inhalt nach Absprache mit den Teilnehmern.

【講義計画】 Eingesetzt werden sollen ausgewählte Hörtexte (zum Beispiel ein Kriminalhörspiel und Texte des literarischen Kabarettisten Hanns Dieter Hüsch) und wenn möglich Videomitschnitte von Sendungen des Deutschen Fernsehens.

【評価方法】 Aktive Teilnahme am Unterricht, sowie sorgfältige Vor- und Nachbereitung der Unterrichtsstunden.

【テキスト】 nach Absprache mit den Teilnehmern

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16691	商業ドイツ語 I	選	3・4	2	前期	W. A. Steitz
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16695	商業ドイツ語 II	選	3・4	2	後期	W. A. Steitz
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16701	ドイツ事情	選	3・4	2	前期	R. Szippel
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 第二次世界大戦後のドイツの歩み

【講義内容】 現代ドイツは50年前の敗戦の時から、変化の激しい道を歩んできた。現代ドイツを理解するために、戦後のドイツの歩みを考えていきたいと思います。主なテーマとして、敗戦後の分割、二つの異なった政治・社会・経済体制の成立、「冷戦」中のドイツの国際的位置づけ、東西ドイツの関係、東西ドイツの統一などを取り上げていきたいと思います。

【講義計画】 現代ドイツの事情の背景として、第2次世界大戦後のドイツの流れを考えていきたいと思います。まず、第2次世界大戦の敗北とその直後の諸問題、即ち勝利国の連合国のドイツ占領政策と利害衝突、東西ドイツの分割の問題から始める。それから、西側の影響で成立したBundesrepublik Deutschland とソ連の影響で成立したDeutsche Demokratische Republik のそれぞれ異なった政治・経済・社会体制の成立を考察する。次に、共産主義圏と西側諸国との間の「冷戦」の中のドイツを考え、東西ドイツの関係とそれぞれの国際関係について考える。そして最後に、近年の東西ドイツの統一とその後の諸問題について考えていきたいと思います。

【評価方法】 試験やレポートを中心に評価するが、出席と授業への積極的な参加も重視する。

【テキスト】 テキストや参考文献については、講義中に指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16702	ドイツ事情	選	3・4	2	後 期	R. Szimpl
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 現代ドイツ

【講義内容】 本講義で、現代ドイツの政治的・経済的・社会的状況を考察していく。特に近年の東西統一を巡るいくつかの問題を考えて、現代ドイツについての理解を深めていきたいと思う。主なテーマとして、統一の問題、統一後の東西の政治的、経済的、社規的統合、統一ドイツの国際関係などについて考えていきたいと思う。

【講義計画】 現代ドイツ事情を解明するために、まず、近年の東西ドイツ統一の成立から始めるが、まず、統一が東西それぞれのドイツにどのような変化をもたらしたかを考察したい。それから両方の政治的・経済的・社会的統合の問題を考えていきたいと思う。最後に、統一ドイツの国際関係、特にドイツのヨーロッパにおける位置づけと役割について考えていきたいと思う。

【評価方法】 試験やレポートを中心に評価するが、出席と授業への積極的な参加も重視する。

【テキスト】 テキストや参考文献については、講義中に指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16711 16715	ドイツ語演劇研究Ⅰ・Ⅱ	選	1～4	各2	前 期 後 期	林 田 雄 二
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 本講義の最終目標は、ドイツ演劇作品の分析法の研究、具体的な作品解釈にとどまらず、解釈された作品を受講者によって上演することである。

それによって、作品のより深い理解が得られるばかりではなく、ドイツ語の言語的面 (verbal) と非言語的面 (non-verbal) の同時修得が部分的に可能になる。95年度の上演は、11月中旬に予定されている。共演準備のための練習は、10月から上演日までほぼ毎日 (16時30分～19時)、講義の枠を越えて行われる。時間的余裕のない者には、作品の歴史考証、舞台装置作成などのしごともある。尚、今年度の上演は、ドイツ領事館、ドイツ文化センター主催、『ドイツ週間』のイベントの一つになる予定である。

【講義計画】

1. 作品選択。
2. 作品解釈。
3. 上演時間に合わせて、作品のカット。
4. 配役、役割分担。
5. 上演練習

【評価方法】

- ・ペーパーテスト
- ・講義への積極的参加

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16721	ドイツ語新聞講読	選	3・4	2	前 期	大 庭 正 春
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 この授業では、多彩な分野 (例えばドイツの政治・経済・法律・文化など) を取り扱った教科書『時事ドイツ語＜'94年トピックス＞』と、また随時アクチュアルな新聞記事のコピーを使用する。最終的には各分野での高度なドイツ語の読解力の養成を目指す。その過程で、新聞の文体的スタ

イルがどのようなものであるのか、あるいは各記事の内容の背景を普段からどこまで熟知しておく必要があるかなどを具体例で検討していく。また時代精神を反映する新しい単語や言い回しなども覚える。

【講義計画】 基本的には上述のテキストと随時配布するプリントを毎週使用するが、各分野の語彙や文章スタイルを学ぶために、各記事を数週間の目安で読んでいく。また地方新聞から全国新聞まで多彩で、しかもその難易度にも大きな差があるので、それらも考慮しながら授業を進めていく。

【評価方法】 平常点と期末（筆記）試験

【テキスト】 『時事ドイツ語＜'94年トピックス＞』
著者 ランドルフ・イエッスル
編者 石井寿子
朝日出版社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16722	ドイツ語新聞講読	選	3・4	2	後期	大庭正春
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修可

【講義内容】 この授業では、前期と同様に多彩な分野（例えばドイツの政治・経済・法律・文化など）を取り扱った教科書『時事ドイツ語＜'94年トピックス＞』と、また随時アクチュアルな新聞記事のコピーを使用する。その際前期で学んだ新聞の文体的特徴や語彙などの理解をもとに読むスピードも速めていき、当初の目的、すなわち各分野にわたっての高度な読解力の養成の完成を目指す。

【講義計画】 基本的には前期と同様に上述のテキストと随時配布するプリントを使用するが、各分野の語彙や文章スタイルは前期で学んでいるので、内容的に比較的難しいものに挑戦していく。量的にも同様である。

【評価方法】 平常点と期末（筆記）試験

【テキスト】 『時事ドイツ語＜'94年トピックス＞』
著者 ランドルフ・イエッスル
編者 石井寿子
朝日出版社

文 学 部

国語学国文学科

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17101 17102	国語学概論Ⅰ（Ａ）・（Ｂ）	必	１・２	各２	前期	丸 山 徹
他の科目との関連	国語学概論Ⅱ履修のための前提科目			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 観念としての「ひとつの統一、日本語」を表すものとして明治の人々がまず選んだ表現、それは「日本語」ではなく「国語」であった。それにはそれなりの非言語的文脈があったといえる。本講義では、この「国語」ということばにこだわりながら、「国語学」「日本語学」「言語学」三者の関係について考える。

次に、現代日本語の音声・音韻論と日本語音韻史を共に学ぶ。

- 【講義計画】
- 「国語」ということばと「国語学」
 - 現代語の音声・音韻論
 - ① 音声とその役割
 - ② 音声器官とことばの伝達過程
 - ③ 音声記号
 - ④ 音声と音韻
 - ⑤ 日本語の音声と音韻
 - ⑥ 音節、文節
 - ⑦ アクセントとイントネーション
 - ⑧ 社会と音声
 - 日本語音韻史
 - ① 「上代特殊仮名遣い」
 - ② 「五十音図」と「いろはうた」
 - ③ 母音・子音の変遷
 - ④ 「清濁」「音便」「オ段長音の開合」
 - ⑤ アクセントの変遷

【評価方法】 平常点と学期末試験の成績による。出席も重視する。

【テキスト】 工藤浩他『日本語要説』（ひつじ書房）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17105 17106	国語学概論Ⅱ（Ａ）・（Ｂ）	必	１・２	各２	後期	丸 山 徹
他の科目との関連	国語学概論Ⅰの履修を前提とする			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 まず、私達が共有する現代日本語の文法を学び、その上で、古代語の姿や日本語の歴史的変遷について、共に考える。

- 【講義計画】
- 現代日本語文法
 - ① 「文法」とは何か
 - ② 文法の単位
 - ③ 形態論・統語論
 - ④ 現代日本語形態論
 - ⑤ 現代日本語統語論
 - ⑥ （術語の有する）文法カテゴリー
 - a. ヴォイス
 - b. アスペクト
 - c. テンス
 - d. モダリティ
 - e. 文法カテゴリーの層状構造
 - 古代語の姿と日本語の歴史的変遷
 - ① 音の変遷（→国語学概論Ⅰ）
 - ② 形態論
 - a. 動詞活用の成立と変遷
 - b. 連体格と連用格

- c. ヴォイス、アスペクト、テンス、モダリティー
- ③統語論
- a. 係結び
- b. とりたて
- c. 接続

【評価方法】 平常点と学期末試験の成績による。出席も重視する。

【テキスト】 工藤浩他『日本語要説』（ひつじ書房）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17111 17115	国文学概論Ⅰ・Ⅱ	必	1	各2	前期 後期	助川 徳 是
他の科目との関連	国文学概論Ⅰは国文学概論Ⅱ履修のための前提科目			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 国文学を研究するための、基本的な文献の探索、その整理の方法をはじめとして、研究の方法論、とくに構造主義、記号論、身体論、時間論などを講義する。それらの理解の上に立って実際に作品を分析することが、自立してできるようにする。

【講義計画】 最初の三時間は講義をノートする。それからテキストを読み、方法論を理解する。その方法を、漱石「三四郎」に応用する。
後期は「こころ」の他現代文学の作品を分析する。

【評価方法】 ペーパーテストによって行う。出席も重視する。

【テキスト】 前期
筑摩文庫 前田愛「文学テキスト入門」
新潮文庫 夏目漱石「三四郎」
後期
新潮文庫 夏目漱石「こころ」
新潮文庫 島尾敏雄「死の棘」
講談社文芸文庫 庄野潤三「夕べの雲」

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17121	漢文AⅠ	必	1	2	前期	山本 和 義
他の科目との関連	漢文AⅡを履修するための前提科目			他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 唐宋詩文選読（杜甫律詩）

【講義内容】 本講義は、作品の読解を軸にはするが、＜漢文学入門＞としての役割をも担っている。従って、漢文学の初歩的知識を授けることにも相当の時間を割くことになる。
杜甫（712～770）は、中国唐代（詩の時期区分では盛唐と称される時期）の詩人で、その七言律詩はその人によって完成された詩の形式であり、中国古典詩の最も高いレベルを示している。われわれは頂点に即いて、中国古典詩のゆたかな広がりを知ることになる。
また、江戸期の和刻本（コピー）をテキストとすることで、その期の訓点資料の扱いに熟すること、講義目的の一つとする。

【講義計画】 まず、中国における詩の歴史を中心とする中国文学史の概要を講じ、日本におけるその受容の歴史に及ぶ。
次に、杜甫の詩の読解を進めつつ詩の形式（詩形・平仄・押韻・対句などを含む）を解説する。もとより講義は詩の形式上の解説に終始するものではなく、人間存在と深く関わるものとしての詩についての考案もまた重視することになる。
なお、この講義を受講するには（とりわけ訓点の扱いに習熟するためには）ノートの予めの準備は欠かせない。それを欠いては、得るところが至って乏しくなる。

【評価方法】 筆答試験による。なお試験には注の部分からも出題する。出欠は厳しくチェックする。

【テキスト】 寛文8（1668）年刊『杜工部七言律詩』巻上の「四時」（四季の意）の部をコピーして用いる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17125	漢文A II	必	1	2	後期	山 本 和 義
他の科目との関連	漢文A I の継続科目			他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 唐宋詩文選読（王安石散文）

【講義内容】 漢文Iの詩の読解を承けて、本講義では散文の読解力を培うことを軸に、＜漢文学入門＞としての内容を含める。

王安石（1021～86）は、中国北宋期の新法党の政治家として知られるが、宋代士大夫の典型と称してよい、すぐれた詩文の作者でもあった。われわれは、その詩文（とりわけ散文）を通じて、中国近世の「知」の在りようを知ることができる。講義はそれについての理解を深めるよう配慮してなされる。

【講義計画】 まず、中国の文章史を簡略に講じ、続いて王安石の散文を「記」を中心に読み進める。その際、文章の構造分析、論理の展開を丹念に追うことに力点を置くこととする。

受講生は予めノートを用意して、講義内容を書きとめることが必要である。

【評価方法】 筆答試験による。試験には注と板書部分からも出題する。出欠は厳しくチェックする。

【テキスト】 漢文大系本『唐宋八家文』王安石部分をコピーして用いる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17131 17135	国文学基礎講読Ⅰ・Ⅱ	必	1	各2	前期 後期	安 田 文 吉
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 国文学研究の入門的事柄について講義するとともに、国文学研究の基礎となる、中古から近世までの写本・版本の読解力を養成するため、変体仮名・くずし字の読み方を訓練する。

【講義計画】 毎回印刷物を配布して、写本・版本を読み進める。また、毎回宿題を課す。

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 「仮名変体集」（新典社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17141 17145	国文学基礎講読Ⅲ・Ⅳ	必	2	各2	前期 後期	福 長 進
他の科目との関連	国文学基礎講読Ⅰ・Ⅱの履修・同時登録を前提とする。 国文学基礎講読Ⅲは国文学基礎講読Ⅳ履修のための前提科目。			他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 『大鏡』の歴史叙述

【講義内容】 連綿と間断なく展開する出来事の総体をどのように分節化し、対象化し、叙述するかによって、歴史は様々な形姿を示す。『大鏡』は冬嗣（文徳）から道長（後一条）までを対象化するが、『大鏡』とはほぼ同じ時代を扱う『栄花物語』とは著しく異なった歴史を現出させた。それは、歴史の分節化、対象化あるいは叙述のシステムの違いに起因する。『大鏡』の歴史叙述を『栄花物語』のそ

れとひきくらべながら、『大鏡』の特異な歴史叙述のシステムについて解説する。合わせて、平安時代の諸作品を文学として読もうとするとき身につけておく必要のある基礎知識および読みの手続き・方法の習得を目指す。

- 【講義計画】 ①歴史叙述について（1～3週）
 ②平安時代の諸相（4～8週）
 ③六国史（9・10週）
 ④『源氏物語』の位置（11～14週）
 ⑤仮名日記と真名日記（15～17週）
 ⑥『栄花物語』の歴史叙述（18～21週）
 ⑦『大鏡』の歴史叙述（21週～）

【評価方法】 前後期とも、講義内容の理解度をみる試験を行い、それによって評価する。

【テキスト】 佐藤謙三校注『大鏡』（角川文庫）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17151 17161	国文基礎演習Ⅰ（A）・Ⅱ（A）	必	2	各2	前期 後期	進 藤 義 治
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 奈良時代漢文の中の漢語の可能性への考察

【講義内容】 すでに、奈良・平安前期から行われていた『日本書記』の徹底した訓読み採用にも影響されて、上代の日本では、漢文は固有名詞などを除き殆ど訓読みされていたように思われているが、実際は音読みもかなり早くから始まっていた可能性がある。本演習ではその可能性を探究する。

【講義計画】 上記目的のため、万葉集の各歌の漢文による題文、詞書、左注の各用語の中から、音読みされた語句、乃至音読みされた可能性の考えうる語句を探し出す。
 ①探し方、及び音読みの可能性の判定について、実例をもって紹介する。
 ②各学生諸君の担当分担の決定。
 ③毎週二人ずつ調査結果の報告、及びその判断の妥当性の検討。
 ④期末に、各発表の成果の集計を加え、奈良時代の日本語の中にどのくらいの漢語が既に含まれていたかの推定を試みる。

【評価方法】 各発表、及びその資料の提出、質疑応答、レポートなどにより総合的に判定する。

【テキスト】 とりあえず岩波書店版・日本古典文学大系『万葉集』を用い、その他参考文献・古辞書などは順を追って紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17152 17162	国文学基礎演習Ⅰ（B）・Ⅱ（B）	必	2	各2	前期 後期	丸 山 徹
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 言語の「規範」・「誤用」と「言語変化」について

【講義内容】 まず、以下のことを、話し合いを通して確認する。
 1. 「言語はなぜ変化するのか」と（まるで、変化をしないのが言語本来の好ましい姿であるかのように聞こえもする）問の立て方は誤り、もしくは少なくとも誤解を生じやすいもの、である。
 2. 言語は変化し（日々、作りなおされ）ている。そしてこれこそ、言語本来の姿である。
 3. その際、「変化する」「作りなおされる」のは一体、何なのか。この間の答え方には様々な形がありうるが、本演習では、ここに「規範」という概念を導入し、「言語変化」を「規範の交替」と促えることとする。
 4. そのように考えると、「規範からの逸脱」としての「誤用」こそ、歴史的に未だ選択の定まっていなかった生きた言語の姿で、そこに新しい「規範」への可能性を読み取ることができる。

- 【講義計画】 上記のような見方に基づき、本演習では、はじめに日本語以外の言語を母語とする人々によって書かれた「規範を逸脱」した文、たとえば、「先生、とてもありがとうございます」「荷物が重くて持ってください」「この本はまずいくらですか」「きのう公園へ行った約束をしました」「ビールをコップと持ってきて」等々を見ながら、日本語の話し手に共通する「規範」について論ずる。参加者には各自、何か一つの具体例に基づく発表が求められる。
- 次に同じく「誤用文」を見ながら私達の語感の中で共通しない部分（たとえば、ある人にとっては「誤用」でも別の人にとっては「誤りの感じられない文」）の存在することについて論じ、「規範からの逸脱」と「言語変化」について話し合う。

【評価方法】 参加者各自の口頭発表の内容、授業中の議論への参加の度合い、期末レポート・期末試験の成績による。

【テキスト】 森田良行『誤用文の分析と研究』（明治書院）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17153 17163	国文基礎演習Ⅰ（C）・Ⅱ（C）	必	2	各2	前期 後期	美濃部重克
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 『愚管抄』の研究

【講義内容】 承久の乱の前後の時期に天台座主であり歌人でもあった慈円の手になった歴史書が『愚管抄』である。神代のことを省いて神武天皇の事績から筆を起し作者の生きる現代までの歴史をたどる。その書は日本で初めて自らの史観をはっきりと打ち出して纏めあげられた通史であって、しかも内容に即した文体上の工夫も懲らして文学的な興味をもって扱うことのできる面白い作品となっている。『平家物語』との密接な関係が推定されるもので、その面からも精読し十分な解釈が必要とされるものである。

【講義計画】 講義は教科書に岩波の古典大系本を用い、その頭注と補注を手がかりに発表者が自ら資料を収集整理したうえで解釈を加えて、その結果を発表することを中心とする。講義担当者はその際に助言者としてクラスに参加することをたてまえとする。資料の収集とその解釈のしかた、そしてそれを通してどのような問題をたてればよいのかに受講生はちからをそそがねばならない。発表資料は発表の一週間前に受講生に配布され、受講生はそれに十分眼を通したうえでクラスにのぞまねばならない。

【評価方法】 評価は、発表資料と発表内容そして他の発表者の発表時における発言にもとづいて行われる。

【テキスト】 岡見正雄・赤松俊秀校注『愚管抄』（岩波書店刊）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17154 17164	国文基礎演習Ⅰ（D）・Ⅱ（D）	必	2	各2	前期 後期	大谷俊太
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 『衆妙集』の研究

【講義内容】 『衆妙集』とは細川幽斎の家集の名。細川幽斎（天文3年1534～慶長15年1610、77歳）は、細川元常の養子。実は12代將軍足利義晴の子ともいわれる。初め足利將軍家に近侍、のち信長・秀吉に仕え、関ヶ原合戦にも東軍に味方し、江戸時代に至るまで戦国の乱世を生き抜いた武将だが、同時に文事に於いても当代有数の文化人であった。特に和歌は九条篁家・三条西実枝に就き、実枝から古今伝授を受けるに至る。天正10年本能寺の変に際して家督を息子の忠興に譲ってからは、以前に増して作歌・古典の書写活動を行い、武家歌人の枠を越えて、公家に伍してその盛名を馳せた。そのような幽斎の学問は、中世歌学の集大成とも称されるにふさわしいが、一方、その実作は、中世以来の伝統を踏まえつつ、用語の面・趣向の面において近世的新しさを感じさせもする。中世と近世の結節点に位置すると考えられる『衆妙集』を読み、古今集以来の和歌の伝統を確認し、その上で近世和歌の始発について考える。

- 【講義計画】 I（前期）は『衆妙集』雑部の和歌を、II（後期）は『衆妙集』巻末に付載する幽斎の紀行文「九州道の記」を精読する。
- ①細川幽斎・『衆妙集』についての概説。
 - ②研究方法の概説
 - ③口頭発表・質疑応答。予め下調べを行い発表資料を作成した上で順番に全員が担当する。
 - ④レポート提出

【評価方法】 総合評価。毎回全員出席のこと。

【テキスト】 コピー配布。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17155 17165	国文基礎演習 I（E）・II（E）	必	2	各2	前期 後期	安 田 文 吉
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 『勸進帳』の研究

【講義内容】 歌舞伎舞踊の傑作『勸進帳』は、短なる歌舞伎舞踊にとどまらず、「義経記」を始め、能の『安宅』、山伏や関守の有様など、謡曲・軍記から中世・近世文化にかかわる面まで、幅広い関連をもっている。この演習では、『勸進帳』を中心に、上記の種々のものを加味しながら、作品の検討を行ない、近世文芸の特色を考える。

【講義計画】 毎回、テキスト一頁程度を2～3人のレポーターを指定して分担させる。
その報告をもとに全員で検討する。

【評価方法】 口述試験

【テキスト】 『勸進帳』（「歌舞伎オンステージ」白水社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17156 17166	国文基礎演習 I（F）・II（F）	必	2	各2	前期 後期	細 谷 博
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 近代文学読解入門

【講義内容】 眼前にある書物を繙き、ある作品を読む。この何気ない日常の行為が、ときに我々をつよく動かすものとなる。閉じられた書物を前に動かされた心をかかえて読み手はあらためて自らに問うだろう、いったい何が読まれたのか、また、いかに読まれたのか。これが我々の出発点である。そこから様々な確認と検討、論文読解、比較考察等が始まる。各々の読みをかかえつつ、さらにゆたかな理解と表現へ向けて。すなわち、「論」の勉強のはじまりである。

【講義計画】 太宰治等の作品を対象として読解を行なう。具体的な作品本文を逐語的に丁寧に読みとることと、また、作品全体を端的にとらえることと同時にめざす訓練の場とする。

1. 作品読解、研究方法入門。
2. 担当課題、発表日程の決定。
3. 口頭発表、質疑応答。
4. 面接による個別指導。
5. レポート提出。

【評価方法】 担当発表、レジュメ、質疑応答、レポート等から総合的に評価。出席も重視する。

【テキスト】 太宰治『女生徒』角川文庫
太宰治『お伽草子』新潮文庫
太宰治『津軽』新潮文庫

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17157 17167	国文基礎演習Ⅰ（G）・Ⅱ（G）	必	2	各2	前期 後期	山 本 和 義
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 『蘇東坡絶句』の研究

【講義内容】 蘇軾（そ・しょく）、号は東坡居士（とうばこじ）は、中国北宋期を代表する詩人で、その詩はわが国でも室町以降ひろく読まれてきた。演習では、村瀬栲亭（むらせ・こうてい）が校閲して、文化14（1817）年に刊行した『蘇東坡絶句』4巻のうち、前期は巻3（七言絶句、訓点つき）を、後期は巻4を読み進める。また、『四河入海』（しかにつかい）の該当部分のうち、一韓智翹（いっかん・ちこう）の聞き書き（『蕉雨余滴』、室町の口語資料）を参考として読む。

本演習では、漢詩（中国古典詩）の読解力を培うことを主たる目的とするが、室町・江戸期の訓点資料、「抄物」（しょうもの）の扱い方に習熟することもねらいとする。

【講義計画】 先ず蘇軾の人と文学（中国文学史における位置づけを含む）について概説し、次いで『四河入海』の解説に併せて発表資料の作成方法を説明する。

受講者は順次、詩一首を分担して、発表資料にもとづいて研究の成果を報告し、それを全員で検討する。発表資料には、主要な詩語の用例（典故）、訳稿、『四河入海』中の詩の本文と『蕉雨余滴』部分のコピーを含めなければならない。受講者全員に配布するものとする（担当者には1週間前に提出する）。なお、用例の検索にあたっては、『佩文韻府』（はいぶんいんぷ）を利用することが求められる。

【評価方法】 発表資料と発表時の成果を主とし、必要に応じてレポートを課する。

【テキスト】 和刻本『蘇東坡絶句』巻3・巻4のコピーを用いる。『四河入海』は勉誠社影印本に拠る（図書館指定図書…館外帯出を禁ずる）。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17251 17261 17271 17281	国文演習Ⅰ（A）・Ⅱ（A）・Ⅲ（A）・Ⅳ（A）	必	3・4	各2	前期 後期	進 藤 義 治
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 源氏物語研究

【講義内容】 源氏物語の特徴（前期）

【講義計画】 始めに、担当教員の心に焼き付いている、源氏物語の作り物語としての個性特徴と思われる点の披露をする。各演習参加学生は、それなどを参考にしつつ、各自に源氏物語の性格を顕著に露呈していると思われる部分の本文を自由に選び出して、その部分の語義解釈及び、文意確認、作者の表現意図の判定、その文芸としての注目すべき点等を明示する。たった一語の正しい判定によって従来の通説の好い加減さを打破し、目から鱗が落ちる新発見を期待している。

源氏物語とは何か（後期）

4年生は、卒業論文の研究の中間報告をすることを原則とするが、その際、卒業論文のテーマに従い、必ずしも源氏物語についての研究でなくてもよい。又、直接卒業論文に関しない源氏物語に関する研究発表でもよい。3年生は、源氏物語に関する研究論文を、最低3編以上読み、その内の一つを選んでその論旨・研究目標・研究上の意義等を紹介説明し、出来ればその論の弱点や未到達の点、限界を論じ、自らのこれからの研究方向を披露することを期待する。

【評価方法】 各発表、及びその資料の提出、質疑応答、レポートなどにより総合的に判定する。

【テキスト】 取り敢えず、最低限、文庫本でもよいから、必ず源氏物語本文の全文を入手しておくこと。もし

て可能な限りあらかじめ原文で源氏物語全体を一度以上は通読しておくことを切望する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17252 17272	国文演習Ⅰ（Ｂ）・Ⅲ（Ｂ）	必	３・４	各２	前期	丸 山 徹
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 言語学の考え方

【講義内容】 国語学概論で学んだことを土台にして言語学におけるものの考え方を確認、後期の各自の発表へと繋げる。

【講義計画】 下記のような（テキスト中の）項目から、一人一人が現在抱えるテーマと関連するものを選び、その内容、参考文献、各自の考えなどを一人ずつ順番に口頭発表し、その後、皆で議論する。
音について－音声と音韻、音韻論の様々な見方、日本語の音声表記とその問題点他
語について－形態素と語、形態素のいろいろ、格と意味役割、語形成、語の意味・形態の透明度、成分分析他
文について－文の構造、句構造文法、文の生成、文の構造の「理解」、文の意味、文の意味の「理解」、テンス、アスペクト、ムード、モダリティ、否定、日本語の文、後置詞句・名詞句の構造、形容詞句・関係節の構造、述語句の構造他
言語の変化について－言語の歴史的研究、文字、文字と発音、音変化とその分類、文法変化と類推、借用、語族の設定と音対応、語族に特有な文法事項他
言語の類型－類型論、語順の類型、プロトタイプ、関係節の類型、関係節化と名詞句の階層、他動詞文の主語と目的語他

【評価方法】 参加者各自の口頭発表の内容、授業中の議論への参加の度合、期末レポート・期末試験の成績による。

【テキスト】 風間喜代三他『言語学』（東京大学出版会）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17253 17263 17273 17283	国文演習Ⅰ（Ｃ）・Ⅱ（Ｃ）・Ⅲ（Ｃ）・Ⅳ（Ｃ）	必	３・４	各２	前期 後期	美 濃 部 重 克
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 中世文学研究

【講義内容】 『平家物語』『閑居友』『とはずがたり』『方丈記』『平家公達草子』を分析的に解釈する訓練を通して中世文学について論文を書くための涵養を目的とする。そのいずれも、王朝の文学的な伝統の上に立ちつつ、中世的な歴史社会の現実とそこに生きる人々の感情の価値化を目的として、中世の文学様式を模索した結果としての表現であって、そこに中世の文学のさまざまな現れを見ることができる。そこからどのような文学に関する問題を引き出すことができるか、受講生は各人その試みをするようになる。担当者はクラスでは助言者として振る舞うことになる。

【講義計画】 はじめに担当者が上記作品のうちいずれかひとつを取り上げて、発表の仕方の手本を示す。あとは受講生が自らの能力をもって試行錯誤を繰り返し、かつ時間をかけての調査と思考の結果をクラスで発表することになる。

【評価方法】 評価は、発表内容そして他の発表者の発表時における発言にもとづいて行なわれる。

【テキスト】 そのつど指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17254 17264 17274 17284	国文演習Ⅰ(D)・Ⅱ(D)・Ⅲ(D)・Ⅳ(D)	必	3・4	各2	前期 後期	大 谷 俊 太
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 『黄葉集』の研究

【講義内容】 『黄葉集』とは鳥丸光広の家集の名。権大納言鳥丸光広（天正7年1579～寛永15年1638年、60歳）は和歌・連歌はもちろん、狂歌・俳諧もよくし、紀行文も残し、書に優れ、古筆の鑑定も行い、禅にも関心をしめず、多彩な人である。また逸話も多く伝わり、飄逸・磊落にして才気溢れる光広像が形成されてもいる。そのような当代を代表する文化人の一人である鳥丸光広の和歌を精読することを通じて、先ず中世以来の和歌の詠まれ方の伝統を確認し、その上で、光広の個性もしくは近世的な新しさについて考える。

【講義計画】 前期・後期を通じて、『黄葉集』巻1に載る定数歌中の歌を順次精読する。
 ①鳥丸光広・『黄葉集』についての概説。
 ②研究方法の概説。
 ③口頭発表・質疑応答。予め下調べを行い発表資料を作成した上で順番に全員が担当する。
 ④レポート提出。

【評価方法】 総合評価。毎回全員出席のこと。

【テキスト】 コピー配布。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17255 17265 17275 17285	国文演習Ⅰ(E)・Ⅱ(E)・Ⅲ(E)・Ⅳ(E)	必	3・4	各2	前期 後期	安 田 文 吉
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 近世演劇史研究

【講義内容】 近世の歌舞伎・人形浄瑠璃作品をとりあげ、作品自体はもちろんのこと、作者・役者・観客・番付・評判記・太夫・三味線等を含めて、総合的に検討し、近世芸能・近世文化について考える。また、近世は農村や漁村・山村にも歌舞伎・人形浄瑠璃がとり入れられ、盛んに上演されており、また、昨今、祭礼も復活、或いは盛んになりつつあるので、これらについても、芸能文化の点から考察したい。

【講義計画】 1. 歌舞伎・人形浄瑠璃について概観する。
 2. 1回につき2名～3名のレポーターを指名。
 3. 合宿は年1回（3～4日）

【評価方法】 総合的評価

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17256 17266 17276 17286	国文演習Ⅰ(F)・Ⅱ(F)・Ⅲ(F)・Ⅳ(F)	必	3・4	各2	前期 後期	細 谷 博
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 近代・現代文学研究

【講義内容】 近代・現代文学の読解、研究を行なう。なにより作品を丁寧に読みたいと思う者、読むこと、そして書くことを通して、何事かをたしかに考えてみようと思う者を対象とする演習である。自己の＜小説読み＞一言業による人間形象の把握の力をためす訓練の場としての参加を望む。
自己のモチーフをしっかりと確認し、研究対象とすべき作家作品をしばらくこんで来ること。

【講義計画】 前期は夏目漱石の作品『明暗』を読み、後期は各自のテーマにそって進める（四年生を優先）。四月最初の回までに、必ず『明暗』を精読してくること。他の漱石テキスト、論文にも目を通して自己の読みの方向、特性を確認しておくこと。
1. 作品読解、研究方法入門。
2. 担当課題、発表日程の決定。
3. 口頭発表、質疑応答。
4. 面接による個別指導。
5. レポート提出（前期は課題作品、後期は自己のテーマ）。

【評価方法】 担当発表、レジュメ、質疑応答、レポート等から総合的に評価。出席も重視する。

【テキスト】 夏目漱石『明暗』（新潮文庫）
水村美苗『続明暗』（新潮文庫）
『漱石作品論集成第12巻 明暗』（桜楓社）
江藤淳『決定版夏目漱石』（新潮文庫）
大岡登平『小説家夏目漱石』（ちくま学芸文庫）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17257 17267 17277 17287	国文演習Ⅰ(G)・Ⅱ(G)・Ⅲ(G)・Ⅳ(G)	必	3・4	各2	前期 後期	山 本 和 義
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 嘉永2年刊『枕山詩鈔』の研究

【講義内容】 幕末から明治にかけて江戸・東京の漢詩壇にあって、森春濤（1819～89）とともに双璧を成した詩人に大沼枕山（おおぬま・ちんざん。1818～91）がある。枕山は、尾張国丹羽村（現・一宮市丹羽）に漢学塾「有隣舎」を開いた鷺津幽林の孫であり、若い日に有隣舎に寓して学んでいる。嘉永2（1849）年に刊行された『枕山詩鈔』1冊（『枕山詩鈔』初～三編、計九巻とは異なる）には、19歳から25歳に至る間の七言絶句を収める。枕山はその自序に「詩の道為（た）るや、精を費べて多きを費ばず、簡に在りて繁に在らず」と記しているように、渾身の力を注いだ力作であり、絶句の名手として知られた枕山の力量を窺うに足る作品群である。

【講義計画】 講義は、まず枕山の人と文学を概説することから始め、研究方法の概略を講じて後、前・後期を通じて作品を努めて精緻に読み進める。本演習では、毎時発表者を定めて、用意された注解稿（発表資料）にもとづいて検討してゆく。特に典故（詩語の拠りどころを含めて）を重んじて、それぞれの詩世界の拡がりを読み取ることに努める。発表資料（草稿）は1週間前には担当者に提出しなければならない。また、永井荷風『下谷叢話』（枕山の詳伝を含む）と、日野龍夫注『成島柳北 大沼枕山』（岩波・江戸詩人選集10）は、参考文献として重視される。

【評価方法】 評価は、発表資料と発表内容、また必要に応じて提出を求めるレポートにもとづいて行う。

【テキスト】 嘉永2年刊『枕山詩鈔』（担当者蔵）をコピーして配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17262 17282	国文演習Ⅱ（Ｂ）・Ⅳ（Ｂ）	必	3・4	各2	後期	丸 山 徹
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 国語学

【講義内容】 国語学概論で学んだ「国語」「日本語」という二つの言葉の成立についてもう一度考えながら、「国語学」「日本語学」「言語学」三者の関係について論ずる。その中で「国語学」を選び、学び続けていることを各自確認してから、口頭発表に臨むこととする。

【講義計画】 四年生から順に、現在抱えているテーマについて口頭発表し、その後、皆でその内容について議論する。日本語に関するテーマならすべて認めるが、四年生については原則として卒業論文のテーマとすること。発表者には発表の一週間前までに演習参加者全員に発表要旨を配布しておくことが求められる。

【評価方法】 参加者各自の口頭発表の内容、授業中の議論への参加の度合、期末レポート・期末試験の成績による。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17601 17605	国語史Ⅰ・Ⅱ	選	2・3	各2	前期 後期	齋 藤 文 俊
他の科目との関連	国語史Ⅰ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 国語史の諸問題

【講義内容】

1. 文字・音韻史
現在我々は漢字・ひらがな・カタカナ・romajiと、四種類もの文字を使用して文章を書いている。その文字の過去・現在・未来について、音節の歴史をまじえながら考えていく。
2. 語彙史
最近、「外来語の氾濫」ということがよく言われる。その外来語を中心に、和語・漢語使用の変遷をたどる。
3. 文章・文体史
和文の形式過程における漢文の影響、及び和漢混淆文の特徴について、いくつかの具体的な作品を読みながら考察していく。
4. 文法史
中学・高校時代に古典文法を学習した時、動詞の活用の多さ、係り結びの法則、助動詞の種類の多さなどにとまどいを感じたと思う。一体いつ頃から現代のような文法へと変化したのだろうか。その変遷のようすを概説する。
5. 国語の近代化
明治になり、「国語」の確立ということが意識された時、直面したのはどのような問題だったのか、そしてその問題は解決されたのか、について考える。

【講義計画】 前期に1・2を、後期には3・4・5を講ずる予定でいる。

【評価方法】 講義中に行う小テスト、前期末試験、学年末レポートにより判定する。

【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17611	国文学史 I	選	2・3	2	前期	美濃部重克
他の科目との関連	国文学史 II と連続して履修することが望ましい			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 中世の和歌史

【講義内容】 平安末期に成立した第七番めの勅撰和歌集である『千載和歌集』から始めて室町後期の歌人たとえば細川幽斎あたりまでの和歌の歴史を、歌集、和歌そして歌論の講読を通してたどる。中世の和歌が時代との関係のなかで、また和歌という様式の自立的な展開のなかで、どのような様相を見せているのかを具体的に読み取ることが中心となる。文学の命であるはずの撥刺としたものが定型化したすがたと言葉を通して、いわば様式の美学に封じこめられるかたちで獲得していった表現を文学史の問題として考えることになる。必要に応じて連歌にも触れることになる。

【講義計画】 『千載和歌集』、西行の和歌、文治建久の新風和歌、『新古今和歌集』『古来風体抄』『近代秀歌』『詠歌大概』『毎月抄』『後鳥羽院御口伝』『金槐和歌集』『新勅撰和歌集』『続後撰和歌集』『続古今和歌集』『続拾遺和歌集』『新後撰和歌集』『詠歌一体』『和歌庭訓』『為兼卿和歌抄』『野守鏡』、京極派の新風和歌、『玉葉和歌集』『風雅和歌集』、二条派の和歌四天王、『新葉和歌集』『草庵集』、『正徹物語』、室町時代の和歌などを中心に、その周縁の文学史に関わる事項を織り混ぜて話をする。

【評価方法】 評価は筆記試験によって行なう。

【テキスト】 岩佐美代子ほか編『新選 中世の文学』（和泉書院刊）を用いる。参考資料はそのつど指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17615	国文学史 II	選	2・3	2	後期	美濃部重克
他の科目との関連	国文学史 I と連続して履修することが望ましい			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 中世の説話文学と軍記文学

【講義内容】 『平家物語』などの軍記文学の世界そして『宇治拾遺物語』などの説話文学の世界について、それを中世の文学史研究の視点から論じる。作品の一部を取り出してそれを講読しながら中世的な説話・物語の誕生と展開を中世の実態的な面と認識的な面から眺めることになる。そこに日本的な感性と美意識とがそうした作品を通して表現されていることが分かるだろう。その際、『愚管抄』などの歴史書における歴史観あるいは法然や親鸞などの新仏教そして明恵や貞慶などの旧仏教の宗教観などについてもおおく触れる。したがって中世の文学史に限られた問題ではなくて、総体としての中世を扱うことになるだろう。

【講義計画】 具体的な作品としては『愚管抄』『保元物語』『平治物語』『平家物語』『太平記』『義経記』『曾我物語』『古事談』『宇治拾遺物語』『十訓抄』『神道集』『宝物集』『発心集』『撰集抄』『沙石集』などを中心にした作品を文学的な視点から取り上げる。作品の一部を講読して、作品の全体に説きおよび、それを中世の文学史的な状況のなかに据えて解説を試みる。その周縁の作品として『愚管抄』『増鏡』などの歴史書、『明恵上人遺訓』『歎異抄』などの宗教書などもあわせて読んで、その世界の時代的背景についても考える。

【評価方法】 評価は筆記試験によって行なう。

【テキスト】 岩佐美代子ほか編『新選 中世の文学』（和泉書院刊）。参考資料はそのつど指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17631 17635	書道A I ・ A II	選	2・3	各1	前期 後期	大 池 茂 樹
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 漢字の書

【講義内容】 中国および日本における書道の歴史を概観することにより、漢字の成り立ちと書道文化について考える。また、毛筆を使つての書写実技を通して、日常の書、現代に生きる書道の役割についても考える。

【講義計画】 前期 1. 中国書道史の概説
2. 「孔子廟堂碑」を臨書し、楷書の基本的な用筆法を学習する
3. 中国の名碑・名蹟の鑑賞
後期 1. 日本書道史（漢学を中心とする）の概説
2. 「三蔵聖教序」を臨書し、行書の基本的な用筆法を学習する
3. 日本の名跡の鑑賞

【評価方法】 出席、実技作品、レポート等から総合的に評価する。

【テキスト】 前期『中国の書の歴史』（書の基本資料3 中教出版）
『孔子廟堂碑（一）』（学生版展大法帖 春潮社）
後期『日本の書の歴史』（書の基本資料4 中教出版）
『三蔵聖教序（一）』（学生版展大法帖 春潮社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17641 17645	書道B I ・ B II	選	2・3	各1	前期 後期	飯 田 実
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 B I “かな書道”（毛筆） B II “ペン習字”

【講義内容】 B I かな（毛筆）
(1)かなの種類。（イ）カタかな・（ロ）ひらがな・（ハ）万葉仮名・（ニ）変体仮名。
(2)わが国独自の“かな文字”誕生の起因とその時代背景。（特に平安初期から中期にかけての時代背景）
(3)ひらがなの字源の理解を通して、ひらがなの正しく美しい書き方の説明。
(4)変体仮名の読解の徹底をはかる。

B II ペン習字
(1)字形の整え方。
(2)かな、楷・行・草書の特徴と基本点画。
(1)(2)の理解を基礎に、現代の実用書の書式を学び、美しく、整ったペン字が書ける様にする。

【講義計画】 上述の目標に向けて、書論の講義を通しての知的理解をはかると共に、併行して“かな文字”“ペン習字”の実技指導を行う。
B I かな：(1)かなの発生と種類。(2)いろは48文字の字源の把握と効用。(3)変体仮名の読解と効用（代表的変体仮名の読解と実技練習）。(4)連綿の基礎十二法について。(5)執筆法について。(6)かな単体および連綿体の基礎的履修。以上の様なかなに関する知識を伝えとと共に、小筆によるかなの美しい書き方を指導する。
B II ペンによる実用書の指導。
(A) はがき・便箋・封筒・年賀状・その他実用文の書法。
(B) 上記のそれぞれの書式について
(C) 自分の氏名を楷・行・草体で正しく美しく書ける様に指導。

【評価方法】 原則として数回提出の実技作品の平均点と、平常点（出席日数など）の総合評価とし、ペーパーテストを行う場合は、これを含めた総合評価とする。

【テキスト】 「梅雪かな帖 上」松林堂（株）
「ペン習字」中日文化センター

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17651 17655	国語学講読AⅠ・AⅡ	選	2～4	各2	前期 後期	粂 山 洋 介
他の科目 との関連	国語学講読AⅠ・AⅡを連続して履修することが望ましい。			他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 現代日本語の意味論

【講義内容】 AⅠ
まず、意味論の基本的な研究方法、特に、語の意味分析の方法論を学ぶ。その上で、現代日本語の「多義語」を分析する方法について考え、自ら分析する能力を身に付けることを目指す。
AⅡ
現代日本語の「類義語」「モダリティの諸表現」「慣用句」を考察対象とし、分析の方法について考え、自ら分析する能力を身に付けることを目指す。

【講義計画】 授業は、プリントに基づく講義及び基本文献の講読を中心に進めていくが、随時受講者に発言を求めるので、積極的に考えを述べることを。

【評価方法】 レポート及び平常点。

【テキスト】 参考文献は随時紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17661	国語学講読BⅠ	選	2～4	2	前期	田 島 毓 堂
他の科目 との関連	国語学講読BⅡ履修のための前提科目			他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 語彙論概説

【講義内容】 AⅠ
日本語学概論のうち、特に語彙論を概説する。音韻論・文法論にくらべてみた時の、語彙論の偏頗な発達、語彙を総体として把握することの未開性を見据えた上で、その用語、単位の問題、体系の問題、語彙分類のこと、個々の語の問題等について考え、語彙論という分野の開拓を目的とする。

【講義計画】 第1回 用語の説明、日本語・国語・日本語学・国語学等。
教職の単位として受講する学生のために、また、国語科そのものについて注意喚起のために、教科としての「国語」のあり方について説明する。
第2回 日本語について、他言語との関係においての大略の説明。
第3回 語彙論の用語について。「語彙」といふ用語の誤用及びその原因。
第4回 語彙論における単位、音韻論・文法論と比較しつつ。
第5回 語彙論の語の単位について。
第6回 語彙論の課題。その集団的規範の側面と個別的実現の側面について。ラング・パロールの論と並行して。
第7回 語誌と辞書。
第8回 語構成論及び語源論
第9回 語彙体系論について
第10回 語彙分類について。『分類語彙表』・ROGET"THESAURUS"について。
第11回 個別語彙分析における意味構造分析。意味構造分析とは。
第12回 集団的規範としての語彙と個別的実現としての語彙、及び、その取り扱い、研究目的について。
第13回 個々の言語資料・言語作品すなわち個別語彙の分析の方法。その視点のいろいろとその視点の効果。
第14回 個別語彙分析のためのC50・D10について。
第15回 単位としての語の組合せ、「臨時一語」について。

その他、随時、基本語・基礎語彙・基幹語彙・基調語彙等について講義する。

【評価方法】 講義時間中に与へる課題についてのレポートによって行なう。

【テキスト】 テキスト：『語彙研究資料集』（田島毓堂編）
参考文献：築島裕『国語学』 田中章夫『国語語彙論』『図説日本語』（角川小辞典シリーズ）等

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17665	国語学講読B II	選	2～4	2	後期	田 島 毓 堂
他の科目との関連	国語学講読B I の履修を前提とする。			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 語彙研究とコンピュータ

【講義内容】 語彙論については、すでにおおまかな知見を習得したものとして、語彙研究におけるデータ作成のために、コンピュータ使用法を学び、その作業に習熟する。

【講義計画】 第1回 語彙論の概略と講義の目的内容等につき説明（資料集を用意する）。
第2～4回 語彙研究の資料作成のためのコンピュータ使用について
1)コンピュータの使用法の説明・使用するプログラムとその使用法の説明と実行
2)テキストエディタを使って入力（練習）（ファイル名 TG???.TXT）
第5～7回 前回の練習結果を用いて
3)単語に分割する（ファイル名 TG???.C.TXT）
4)Voca Systemを使って単語レコードを作る（ファイル名 TG???.V.TXT）
5)TG???.V.TXTを補充訂正する（単語集の完成）
6)DBPROを用いて「単語集（ファイル名 TG???.DPT）から「異語表（ファイル名 TG???.K.DPT）」を作る（DBPROの操作）
7)「異語表」を種々操作・分析する（度数順・度数別統計）
8)「異語表」に品詞・語構成・語種・意味コードを付加し、品詞別・語種別・語構成別・意味分野別語彙表・統計表を作る
9)他資料と比較検討する（言語資料としては谷崎源氏を用ゐる予定）
意味コード付けについて実践する。（課題を与へる）
第8～10回 課題1について、各自実習し、前記の、2)から5)までを行なふ。
第11回 意味コード付けについて実践する（課題を与へる）、『分類語彙表』を用ゐる。
第12～15回 課題2について、前記の2)から8)を実行し、完成結果をレポートとして提出する。
その他、随時5)～9)までの作業をする。また、既に作成してある源氏物語の語彙表・宇治拾遺・今昔物語の語彙表などについても検討する。また、意味構造分析も行なふ。

【評価方法】 時間中の課題1・2及び他の宿題によって行なう。

【テキスト】 教科書：
国語学講読B I で使用した『語彙研究資料集』を使用する。
注意事項
○不明な点、理解出来ないことなどについては、その時間内に質問して必ず解決しておくこと。
○出席については厳密にはしないが、欠席した時間のことについては、各自の責任で補っておくこと。後の時間にそのことについての質問には応じない。
○人数は40人を限度とする。（計算機の台数の関係）
参考文献：田中章夫『国語語彙論』S53.2明治書院
国立国語研究所「分類語彙表」S38秀英出版

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17681	漢文学講読 I	選	2～4	2	前期	山 本 和 義
他の科目との関連	漢文学講読IIを履修するための前提科目			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 荻生徂徠『絶句解』（李攀龍の五言絶句）

【講義内容】 荻生徂徠（1666～1728）は、中国明代の古文辞派に学んで、古文辞学（または徂徠学）を起こして、わが国近世の学芸を革新した巨人である。『絶句解』三巻は、その人が編みかつ注解した明代古文辞派の絶句集であり、その大半を占めるのが、後七子の一人である李攀龍の作品である。古文辞派は「文は秦漢、詩は盛唐と漢魏に学ぶ」ことを標榜した擬古を重んずる文学であって、近時それに親しむ人は稀であるが、わが国の江戸期の文学に及ぼした影響は極めて大きい。本講義では、『絶句解』巻上（五言絶句百首解）のうち、李攀龍の作品を読み、併せてそれを国字解（和訳）し、初心者のための解説を補った中川南峰の『絶句解辨書』の該当部分を読む。

【講義計画】 中国時代の古文辞派とわが国江戸期の古文辞学（それに関わる文学）について概説のうち、『絶句解』と『絶句解辨書』を併せて読み進める。
受講者は、指名を受けて、両書を読み上げ、かつ担当者の問いに答えなければならない。従って十分なる予習のうえ講義に臨むことが必要である。

【評価方法】 筆答試験による。

【テキスト】 『絶句解』と『絶句解辨書』をコピーして用いる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17685	漢文学講読Ⅱ	選	2～4	2	後期	山 本 和 義
他の科目との関連	漢文学講読Ⅰと連続して履修することが望ましい			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 荻生徂徠『絶句解』（李攀龍の七言絶句）

【講義内容】 前期の漢文学講読Ⅰが五言絶句を講読したのに続いて、『絶句解』巻下（滄溟七絶三百首解下）によって、中国明代の古文辞派を代表する李攀龍の七言絶句を読む。その際、われわれは徂徠の詩を深く読む能力がいかにすぐれていたかを知ることになろう。前期同様、中川南峰による国字解（和訳）である『絶句解辨書』を併せて読むほか、服部鳳翔の『絶句解典故』三巻を適宜に参考として読む。

【講義計画】 前期の漢文学講読Ⅰと同様の方式による。

【評価方法】 筆答試験による。

【テキスト】 『絶句解』・『絶句解辨書』・『絶句解典故』をコピーして用いる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17691	国語学特殊講義AⅠ	選	3・4	2	前期	丸 山 徹
他の科目との関連	国語学特殊講義AⅡ履修のための前提科目			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 大航海時代の語学書

【講義内容】 15世紀末から17世紀中頃まで、ポルトガル・スペインを中心とするヨーロッパの国々が、天文学・地理学の発展、航海術・造船技術の進歩によって世界各地へ進出、それまで（ヨーロッパには）知られていなかった諸民族、諸文化と接触するようになる。こうした時代を一般に「大航海時代」と呼ぶ。この大航海時代の先駆者ポルトガルが16・17世紀にアメリカ、ブラジル、インドそして日本において著した各地のことばについての記述―それをここでは「大航海時代の語学書」と呼び、本講義においてその成立の背景を解説する。

【講義計画】 1. ルネサンス、宗教改革、大航海時代
1)大航海時代と日本
―JAPANということば
2)ルネサンス
3)宗教改革と反宗教改革
―イエズス会の成立

- 4)人文主義
- 5)印刷術
2. ルネサンス期の語学書
 - 1)ラテン文典
 - 2)「俗語」文典
 - 3)ポルトガルにおける語学書
 - a ラテン文典
 - b ポルトガル語文法書・正書法書
3. 大航海時代の語学書
 - 1)「大航海時代」
 - 2)「語学書」
 - a 文法書
 - b 辞書
 - c 公教要理
 - 3)アフリカ
 - a 時代背景
 - b 土着語の語学書
 - ①コンゴ語
 - ②ンドンゴ語
 - 4)ブラジル
 - a 時代背景
 - b 土着語の語学書
 - ①トゥビ語
 - ②カリリ語
 - 5)インド
 - a 時代背景
 - b 土着語の語学書
 - ①コンカニ語
 - ②タミル語

【評価方法】 期末レポート・期末試験の成績による。

【テキスト】 毎回プリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17693	国語学特殊講義AⅡ	選	3・4	2	後期	丸 山 徹
他の科目との関連	国語学特殊講義AⅠの履修を前提とする			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 「大航海時代の語学書」としてのキリシタン文献

【講義内容】 国語学で一般に「キリシタン文献」と呼ばれているものの一部を、「大航海時代の語学書」として捉えなおし、その成立の背景について、共に考える。

- 【講義計画】
4. 日本におけるキリシタン文献
 - 1)キリスト教の伝来と伝播
 - 2)キリシタン文献
 - a 宗教書
 - b 文学書
 - c 語学書
 5. 日本における語学書
 - 1)日本語の文法書
 - a ジョアン・ロドリゲス
 - b 「日本大文典」
 - c 「日本小文典」
 - d 「大文典」から「小文典」へ
 - 2)日本語の辞書
 - a 羅葡日対訳辞書
 - b 日葡辞書
 - c 落葉集
 - 3)日本語の公教要理

- ードチリナ四種
6. 日本における語学書の性格
一世界の他の地域のものとは比べて
7. 日本語史研究におけるキリシタン文献
1)日本語の歴史 概略
2)日本語史研究の流れ
3)日本語史研究とキリシタン文献

【評価方法】 期末レポート・期末試験の成績による。

【テキスト】 毎回プリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17695 17697	国語学特殊講義BⅠ・BⅡ	選	3・4	各2	前 期 後 期	齋 藤 文 俊
他の科目 との関連					他学科 履 修 可	重 複 履 修 可

【副 題】 異文化受容と漢文訓読

【講義内容】 漢文訓読とは、数種の文字・記号を付けることにより、外国語である漢文を日本語として読むことを可能にする一種の翻訳法である。そしてこの漢文訓読は、東洋文化の受容の上で大きな役割を果たしたことはもちろん、江戸・明治期における西洋文化の受容とも関わりを持っている。本講義では、明治時代までの異文化受容における翻訳の役割について、漢文訓読を中心に考えていく。

【講義計画】 BⅠ（前期）は、漢文訓読の成立と変遷の過程、また問題点について、特に江戸時代を中心に考察していく。
BⅡ（後期）の前半においては、江戸時代の蘭学・明治時代の洋学を中心に、西洋文化の受容の方法、及びその中における漢文訓読の役割について概説し、後半は、『聖書』『花柳春話』など、明治時代の翻訳作品をいくつかとりあげ、それらの作品の文体・語法上の特徴について考えていく。

【評価方法】 講義中に行う小テスト、前期末レポート、学年末レポートにより判定する。

【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17711 17713	国文学特殊講義AⅠ・AⅡ	選	3・4	各2	前 期 後 期	加 藤 洋 介
他の科目 との関連					他学科 履 修 可	重 複 履 修 可

【副 題】 古典文学の本文（テキスト）

【講義内容】 平安時代に成立した古典文学の本文（テキスト）は、享受のためあるいは研究のための、「書写」という営為の繰り返しにより、現代へと伝存している。そして今日我々が日にする活字テキストは、特殊な場合を除き、この「書写」という営為にかかる「写本」の本文に、ある一定の基準によった「校訂」という処理を施すことで出来上がっている。本講義では、土佐日記・古今和歌集・源氏物語などといった、平安時代の作品を取り上げる中で、「書写」と「校訂」に関わる様々な問題について考えてゆく。

【講義計画】 主として前期は、土佐日記と古今和歌集を取り上げ、源氏物語は後期に扱うことになる。それぞれ本文（テキスト）をめぐる研究史についてまず講じ、その問題点と解決のための方法と作業について論じる。また講義の内容からいっても、変体仮名についての知識が必須であるため、前期はその習熟にも合わせて努める。後期は本文（テキスト）の問題の所在について主体的に把握してもらうため、学生諸君にも作業を経験してもらう予定である。

【評価方法】 筆記試験による。

【テキスト】 『仮名手引』（神戸平安文学会編、和泉書院、¥309）

(変体仮名の書体を一覧にしたものなら、何でもよい。)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17715 17717	国文学特殊講義BⅠ・BⅡ	選	3・4	各2	前期 後期	太 谷 俊 太
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 室町後期・江戸初期の文学

【講義内容】 東山時代から安土桃山時代、そして寛永時代、さらには元禄時代に亙る時代を一つのまとまりとして、中世から近世への過渡期と促え、その時代に生を享けた人々の文事を検証することにより、文学における伝統の継承と断絶の問題などを中心に、当代の思潮・文化への考察を試みる。

【講義計画】 Ⅰ（前期）は宗祇・三条西実隆・細川幽斎など東山文化・安土桃山文化に於ける人々の、Ⅱ（後期）は鳥丸光広・木下長嘯子・後水尾院など寛永文化・元禄文化を担った人々の文事をとり上げる予定である。

【評価方法】 レポート試験による。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17721 17723	国文学特殊講義CⅠ・CⅡ	選	3・4	各2	前期 後期	安 田 文 吉
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 近世歌舞伎研究

【講義内容】 近世の歌舞伎・人形浄瑠璃は、近代のものとは大いに異なって、その筋立てを中心に非常に面白く構成されている。本講義ではⅠ・Ⅱともその成立以来の歴史的展開を念頭において、代表的作品をいくつか取上げ、VTR等を参照しながら、近世芸能文化の視点から検討・考察し、そのおもしろさの本質を考える。

【講義計画】 近世の歌舞伎・人形浄瑠璃の概観をし、その後代表的作品を取上げて検討する。またⅠ・Ⅱとも、御園座歌舞伎公演を講義の一環として鑑賞する。

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17725 17727	国文学特殊講義DⅠ・DⅡ	選	3・4	各2	前期 後期	助 川 徳 是
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 夏目漱石の研究

【講義内容】 漱石の文学の中から初期の三部作までを分析、批評する。方法としては時間論、構造主義等を活用してオリジナルな分析を目指す。

【講義計画】 DⅠ（前期）は「我輩は猫である」「坊っちゃん」「三四郎」「それから」「門」をこの順序にとりあげ、分析する。
DⅡ（後期）は「彼岸過迄」「行人」「こころ」「道草」「明暗」を分析する。

【評価方法】 筆記試験による。出席も重視する。

【テキスト】 D I (前期) 「我輩は猫である」「坊っちゃん」「三四郎」「それから」「門」
D II (後期) 「彼岸過迄」「行人」「こころ」「道草」「明暗」(新潮文庫)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17731 17733	国文学特殊講義 E I・E II	選	3・4	各2	前期 後期	佐 藤 房 儀
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 近代詩研究

【講義内容】 詩は解釈と鑑賞によって面白味が生れてこなければならない。そのためには正しく読み、正しく味うことが大切である。一篇の詩にさまざまな理解が可能だと言われるのは間違っている。詩の書かれた状況を時代と作者に則して観察することによって、作品への正しい接しかたと読みが生まれるはずである。そのことにより詩への興味が一層ますますであろう。本講義においては、詩への理解と面白味を増すべく努力したいと願っている。

【講義計画】 E I (前期) は近代詩の発生から明治後期までを講義する。近代詩の発生では、新体詩の問題を取り上げる。新体詩作品は使用テキストにないため、コピーによって教材とする。ついで30年代から40年代にかけての作品を実際に読みながら、作品の解釈と鑑賞をする。

E II (後期) は大正期の詩人達の作品を読む。大正時代は明治の達成の上に早くも生じた完成期であった。作品は多彩になり、詩人達の個性も際立ってくる。この時期の作品群を読みながら、詩への理解を深めたい。

【評価方法】 期末試験によって評価する。

【テキスト】 E I (前期) 吉田精一著『日本近代詩鑑賞－明治編』創拓社1600円
E II (後期) 吉田精一著『日本近代詩鑑賞－大正編』創拓社1600円

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17751	漢文学特殊講義 I	選	3・4	2	前期	山 本 和 義
他の科目 との関連	漢文学特殊講義 II を履修するための前提科目			他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 中国文学史の諸問題 I (総論と古代文学史)

【講義内容】 本講義は、漫然と三千年に及ぶ中国文学史の事象をたどるのではなく、その全体像、また各期の問題点を論じて、それを支点に全体を見通すことを企図している。講義は配布する資料(コピー)を中心に進めるが、テキスト(『中国文学を学ぶ人のために』)を補助的に用いる。また、講義にあたっては作品に即くことに努め、作品の読解に可能な限り多くの時間を割いて、漢詩文の読解力を培うべく配慮したい。

【講義計画】 まず<総論>として、中国文学史を古代・中世・近世(ほぼ各1000年)に時期区分する担当者の立場を主張する。当然ながら、それには文学の領域を超えて、中国史についての考察が含まれる。次いで、殷周革命を中国文明の重要な転換として論じ、<古代文学史>に重きをなす「詩経」と「楚辞」をそれと結びつけて読むこととする。また、漢代の詩賦の概略を構ずる。

【評価方法】 筆答試験による。

【テキスト】 『中国の文学を学ぶ人のために』(世界思想社刊)と配布する教材を用いる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17755	漢文学特殊講義Ⅱ	選	3・4	2	後期	山 本 和 義
他の科目との関連	漢文学特殊講義Ⅰの継続科目			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 中国文学史の諸問題Ⅱ（中世・近世文学史）

【講義内容】 前期講義の＜総論と古代文学史＞を承けて、中国文学史の中世と近世の問題点を論ずる。
本講義の主要な論点は、中世文学と近世文学を対比することを通じて、その断絶と継承の問題に置かれる。この講義においても作品の読解に多くの時間を割いて、読解力を培うべく配慮する。

【講義計画】 中国文学史の時期区分を確認の上、まず、中世文学の在りようを、その冒頭において示した「古詩十九首」（『文選』）の教篇を読解する。次いで、その論点をひろく中世文学に広げる。
後半では、近世を代表する文学者である蘇軾（東坡居士）の「赤壁の賦」を読み、かつ論じて、近世文学の新生面を明らかにするほか、ひろく近世文学一般についても論ずる。

【評価方法】 筆答試験による。

【テキスト】 『中国の文学を学ぶ人のために』（世界思想社刊）と配布する教材を用いる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17761 17763	国文学講読AⅠ・AⅡ	選	3・4	各2	前期 後期	田 中 喜 美 春
他の科目との関連	国文学講読AⅠ・AⅡを連続して履修することが望ましい			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 『古今集』研究

【講義内容】 なぜ古今集が作られ、それが何を達成したかについて考える。諸本の本文を考慮に入れつつ、歌の表現法を導入することによって、作者が何を表わしたかを解明することを基礎作業とする。

【講義計画】 資料の扱いや歌を理解する方法などについてサンプルを示しつつ、学生に下調べをしてもらった上で授業を進める。

【評価方法】 試験による。各期二、三回義務ではないレポートを提出させ、試験の成績が悪かった者にはこれを加えて評価する。遅刻、私語は厳禁する。

【テキスト】 小町谷照彦訳注『古今和歌集』（旺文社文庫）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17765 17767	国文学講読BⅠ・BⅡ	選	3・4	各2	前期 後期	美 濃 部 重 克
他の科目との関連	国文学講読BⅠ・BⅡを連続して履修することが望ましい			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 『源平盛衰記』の講読

【講義内容】 中世の代表的な文学作品である『平家物語』の伝本のひとつである『源平盛衰記』を講読する。
『源平盛衰記』は四十八巻からなる大部な作品だが、『平家物語』の伝本のなかで読み物としてもっとも流布した本である。叙述は平板で影りの浅いものとなつてはいるものの、多岐にわたる内容の増補を伴う稗史的な視点の持ち込みによって、『平家物語』の世界を促えなおしたのとなつてい。稗史的というのは、このテキストにおいては説話的な認識と表現の網をかぶせての歴史叙述となつて現れている。またその増補は中世の注釈書の世界に繁がるものを多く含んでいて、ダイジェストの時代としての中世的な文学世界の投影をそこに見ることのできる作品である。本文の精読を

通してそうした作品の特徴を読み取る。

【講義計画】 『源平盛衰記』巻19の源頼朝の旗揚げの話題から読む。精読をむねとするけれども、出来る限りたくさんの分量を読むことを目指す。それで担当者が本文を読んで、説明を加えることをたてまえとする。ただし受講者にもその都度、よみ方、意味そして分析的な本文解釈に関する質問をして答えて頂く。テキストには担当者が注を付けた本を用いて、その頭注と補注を読むことを通して、そうしたジャンルの研究に必要な資料の存在とその読み方が会得できるようにする。

【評価方法】 評価は筆記試験によって行なう。

【テキスト】 松尾葦江・美濃部重克校注『源平盛衰記（四）』（三弥井書店刊 1994）、参考資料はそのつど指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17771 17773	国文学講読CⅠ・CⅡ	選	3・4	各2	前期 後期	大 谷 俊 太
他の科目 との関連	国文学講読CⅠ・CⅡを連続して履修することが望ましい			他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 藤川百首題和歌

【講義内容】 藤原定家が晩年に官位の停滞を嘆いて詠んだとされる『藤川百首』は、別名「難題百首」とも呼ばれる。「閑路早春」などの四文字の結題は難題とされ、その注釈書も多く作られた。また、定家以後、中世から近世にかけて、多くの歌人が同じ藤川百首題の百首を残している。授業では、諸注釈書を参看しつつ、定家をはじめとする多くの歌人の藤川百首題和歌を読み、和歌の意味の精確な把握と各歌人あるいは時代による詠風の違い等を検討する。

【講義計画】 前期・後期を通じて、秋二十首・冬十首の題の和歌を順次講読する。
①藤原定家『藤川百首』・種々の藤川百首題和歌についての概説。
②調査・発表方法の概説
③口頭発表・質疑応答。予め下調べを行い発表資料を作成した上で順番に担当する。
④筆記試験

【評価方法】 担当発表の内容・資料・質疑など、および筆記試験。

【テキスト】 コピー配布。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17775 17777	国文学講読DⅠ・DⅡ	選	3・4	各2	前期 後期	塩 村 耕
他の科目 との関連	国文学講読DⅠ・DⅡを連続して履修することが望ましい。			他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 西鶴『万の文反古』

【講義内容】 西鶴遺稿集中の佳作で、1章1通の書簡体小説集である『文反古』を、影印版で精読する。作家没後に刊行された作品の常として、テキストに問題があり、特にその点を書誌学的、および他作品の関連等内容的に検討する。

【講義計画】 ・全章を前期・後期で通読する予定。
・当初は、くずし字読解力の養成を急ぐ。
・併せて版本書誌学や近世以前の手紙について学び、さらに作品の背景となる社会史に関する興味を喚起して、作品の深い理解を目指す。

【評価方法】 基礎的な読解力の達成は授業時に随時評価する。最終的には、作品中より自ら問題を設定し、その解決を目指す奮闘の跡をレポートしてもらう。

【テキスト】 『万の文反古』（谷脇理史編、武蔵野書院、1030円）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17781 17783	国文学講読 E I ・ E II	選	3・4	各2	前 期 後 期	細 谷 博
他の科目 との関連	国文学講読 E I ・ E II を連続して履修することが望ましい			他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 短篇を読む（鷗外・龍之介・志賀・太宰）

【講義内容】 すぐれた短篇の書き手である上記作家の作品を読み、短篇作品の読み方を考える。各篇の確実な読み取りを通して、作品の趣向、特質、文学的価値について端的に考察する。他者による異なる読み方と対峙することによって、自己の読みの特性を自ら把握することを目指す。

【講義計画】 前期に志賀直哉、太宰治、後期には森鷗外、芥川龍之介を中心に読む。
各短篇について担当者による発表をもとに、具体的な論評を加え、さらにくわしい解説をほどこす。参加者全員が分担することの無理な場合、希望者を優先する。
1 短篇作品解説のあり方についての解説、実践。
2 読解担当者、日程の決定。
3 担当者による読解、質疑、教員による論評解説。

【評価方法】 担当発表。各期末試験によって評価。出席も重視する。

【テキスト】 E I（前期）
志賀直哉『清兵衛と瓢箪・網走まで』（新潮文庫）
志賀直哉『小僧の神様・城崎にて』（新潮文庫）
太宰治『走れメロス』（新潮文庫）
太宰治『きりぎりす』（新潮文庫）
太宰治『ヴィヨンの妻』（新潮文庫）
E II（後期）
森鷗外『舞姫・うたかたの記 他三篇』（岩波文庫）
森鷗外『山椒太夫・高瀬船』（新潮文庫）
芥川龍之介『蜘蛛の糸・杜子春』（新潮文庫）
芥川龍之介『河童・或阿保の一生』
他